

愛知県美術館の保存対策 その2

所蔵作品のコンディション・レポート

長屋菜津子

新愛知県美術館は一九九二年十月三十日に開館し、旧愛知県文化会館美術館（一九五五年に開館）の一〇五六点のコレクションを引き継いだ。このコレクションは一九六一年から新館の準備室が収集を開始する一九八七年までの二十六年間に形成されたものである。コレクションの分野は日本画、洋画、水彩・素描、版画、彫刻、工芸、書と分野は非常に広いが制作された時代は狭い。これらコレクションについての分析とその後の収集方針については、浅野徹「愛知県美術館のコレクション」に詳しいのでここでは省略するが、拙稿に関連する二つの特色だけはここで述べておく。第一は二十世紀を中心とした近現代の作品のコレクションであること。第二に旧愛知県文化会館美術館（以下旧館）は貸しギャラリー的な要素が強く、様々な団体展に展覧会会場を提供した。そのため、旧館自体の所蔵作品の収集傾向も、郷土作家の顕彰という面が強く、作家から直接購入されたものが非常に多かったという²ことである。一方で修復費という予算が旧館で計上されたのは一九八三年のことであり、旧館時代に修復された作品は五十点にも満たない。そのオリジナリティーへの介入の少なさは近現代作家の技法材料研究および経年変化研究の上では幸いしているとも考えられる。またこの修復事業が開始されてからの十年間に関しては比較的関連の書類は散逸、廃棄を免れていた。

しかし経年変化そのものに対する資料はそうではない。この三十年あまりの間の作品の変化を知る手がかりは極めて少なく、また断片的である。旧館時代の作品のための環境は決して良いものではなかった。新館が引き継いだ作品は多かれ少なかれ経年変化を示し、損傷として認められるものも少なくない。

開館後、改めて作品の状態調査を行うとともに、少ないとはいえ、まったくないわけではないこれら断片的な作品の過去の資料をどのようにまとめ、どのように活用してゆくのか、当館での五年間の実験的な試みの後、方針の一部が、具体的にようになってきたと考えられるので以下に報告する。

残された資料を整理し過去の状態を考察しようとした時、そこに作品の状態を示す言葉が書かれていても、そ

図1-1. 比較参照図

	例1	例2	例3	例4	例5
剥離	絵具層の状態を指す用語 (剥落は図A、剥離は図B)	群に対し用いる 例文、「剥落部は欠損の集まった所」	自然劣化によって生じた症状を表す	flakeの訳として使う 図E	基本的に使わない
剥落					
欠損	素地、支持体を含む損失の状態を示す用語 (欠失を、特に部分の紛失の意味で使い分けている人もいる。図Cと図Dの違い)	単独の症状に対する用語 例文、「剥落部の中で一番大きな欠損は……」	人為的な原因によって生じた損失を表す	lossの訳として使う 図A	作品に対しては伝統的にこの用語を使う
欠失					

いずれも日本語として間違いとはいえない。例1、2、3についてはどの定義であっても結果は同じになることもある。つまり「自然劣化」では「絵具層」にcleavage, cupping, loss等は起こりやすく、またその場合「群発」することが多い。また、「素地」を含むほどの損失は「人為的」で、かつ「単独」のものが多くのも事実である。しかしこれら三つの（あるいは二つの）条件を満たさない症状を、どこに分類するかが、現場で問題になる。

の言葉の書き手の定義がわからず、結局状態がはっきりしないという事態に直面した。このことから一九九〇年代に愛知県美術館に在職した保存担当学芸員がどのような定義で状態を指し示す言葉を用い、調書を作成したのかを、将来の保存担当学芸員のためにも明らかにしておく必要を感じ、資料編に用語をあげることとした（資料13）。また同様に、表記法、分類基準等、書く側が読む側に定義を明らかにしておかないと後に意味がなくなると感じたものについて、併せて資料編に入れた（資料14）。

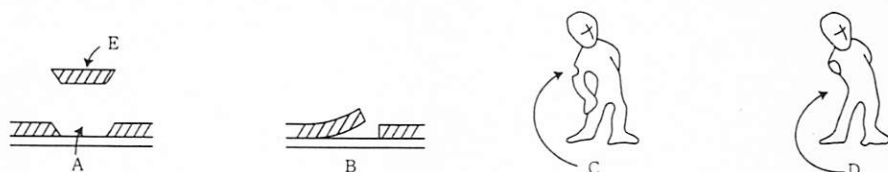
なお、用語の問題については、現在の日本の美術関係者の間では、非常に未整理で、他人の調書を解説するには注意を要するのが実状である。例えば、剥落、剥離、欠損、欠失という言葉等がやっかいである。個人的な経験の範囲内だけでも、上図のような定義が使われている（図1-1、1-2）。

特に次の二つのことは特筆すべきである。まず一つ目は外国から導入されたものについては原語に対して訳語が当てられ、国内に広まっていたが、中にはもともと日本にはなかった物や概念を日本語で表現するという、訳者にとって非常に困難な作業を経て、発表された用語もあるということである。したがって訳者によって選択された用語が異なるという事態は当然生じてくるし、もとの原語の定義が理解されないまま、日本語の本来の語意と混同されてしまっている部分もある。出版されたこれらの訳本の中の用語は、その後日本語として市民権を得て、現在では広く使われている言葉になっていったわけであるが、美術館業務の中で、上記のような事情があったため、現場で大きな誤解と混乱が生じたということも経験している。二つ目は古来の日本の文化の中にあつた、技法、材料、状態についての用語も、そもそも分野や地方によって用いられ方が異なるという事情である。しかしこれらの用語はその土壌に根づいた言葉であり、表現であり、その言葉自体がまた一つの文化である。決して否定されるべきものではない。

これらのことから愛知県美術館の保存担当学芸員が自分の調書の中で使用する用語や表記についての意味・内容を明らかにしようとするとき、誤解のないようにその目的を今一度明らかにしたい。愛知県美術館研究紀要のこの拙稿は、これらを正そうとか、統一しようとかいった意図で、これらの用語の問題を取り上げるのではなく、愛知県美術館の調書をより正確に「伝達するもの」、「記録するもの」にする手段の一つとして作成しているのだという事を強調する。従って他の諸団体がこの問題を取り上げ、この目的において統一分類、用語等を編纂するなら、そこで決められた方針に切り替えてゆく準備はある。

1、保存担当学芸員が管理する所蔵作品についての調書の全体構成
保存担当者が作品毎に整えようとしている一連の調書（広義のcondition report）の目的には大きく二つのこと

図1-2.



がある。一つは作品毎の技法材料の研究資料としての機能、もう一つは作品の経年変化の記録としての機能である。

一つ目の目的である技法材料は実は複雑である事が多い。また近現代美術を専門とする美術館が警戒しなければいけないことは、例えば「不透明水彩絵具」として今我々が認識している絵画材料が二百年後も「不透明水彩絵具」として認識されるかどうか、また現在のもとの将来のものが同一であるかという保証はなにもないという事である。二十世紀に生まれ二十世紀に育った我々にとって「工業生産物」はあまりにも身近で、何の疑問も持たないものとなっているが、もしかすると二十一世紀にとって「二十世紀の美術」のまず第一の特色はこのことになるのかもしれない。かつて各工房によって秘法が存在していたのと同様に現在では企業秘密が存在する。美学美術史的な検証の上ではあまり重要性を帯びない事になるのかも知れないが、保存修復を考えなければならぬ美術館関係者にとっては実に重要な問題として位置付けなければならぬ。この材料についての情報、および各作家によってそれら材料がどのように用いられたのかという情報は、同時代であるからこそ、詳細な記録を残す努力をしなければならぬ。しかしこの作業は実は非常に難しい。後世にとって最も重要で必要な情報は、その時代の生活者が当然と受けとめ、特に記録されなかったものの中に意外と存在しているのだということを、現在私たちが先人の作品研究をする中で経験しているからである。

また調書の問題から若干離れるが、同時に上記と同じ目的で各メーカーが出している画材のパンフレット等の資料も併せて収集に努めている。特に国産材料についての資料収集は日本の美術館の使命である。

二つめの経年変化に関する記録は、蓄積されなければ研究資料にはなり得ない。通常行われている点検作業の記録や写真資料、その他以下に述べる資料が立体的に積み重なり関連し合うことで保存方法研究の資料として意味を持つものと考えている。また別に美術館が系統だてて整える作品の環境データと関連付けられるだけの体系を整えなければ、それぞれ組成の異なる作品個々の最適な保存方法を研究することは出来ない。

日本の美術館の先人達はこれを経験としてこなしてきた。しかし一人の人間の在職期間はいずれ三十年ぐらゐのものである。百年から二百年後の長期予測をするにはやはり一人の人間の経験を越えて、組織としての統計学的検証を行う準備が必要である。

これら二つの目的を遂行するのに最もふさわしい方法はオリジナルを忠実に画像化し蓄積してゆくことだろう。技術論として、デジタル画像等で状態を記録すること等の試みは急速に展開している。いずれは現在での点検作業は過去の方式となり、これらの方法が現在の現場での方法にとって変わってゆくのだろうという予測はある。しかし実際の我々の現場に導入され日常化するまでにはまだまだ解決しなければならない問題が多くあり、現在の経年変化の記録はそれまで手をこまねいて待つていられる状態でもない。

現美術館業務で行われている日常的な作品点検とは、作品のコピー等をマップにして、そこに場所を示す記号と状態を示す言葉を記入する事が一般的である。これらの資料と写真資料、およびその他の付随事項をいかに系統だてて蓄積してゆくかが本稿の論点である。

愛知県美術館もデジタル画像のファイル化へ向けての準備は進められているが、状態の記録としての活用法、蓄積方法等についてはまだ具体化された案はなく、すべてこれからの課題となっている。

1-1 形態

以上の目的のための資料は、一点の作品に一冊の形で整えられつつある。綴じる順番は、その資料の年代順であるが、すべての綴共通の用紙が冒頭に三枚ある。

表紙……索引、その冊子に綴じられている調査類を年代順に示している。(資料1)

第2葉……作業記録用紙、それぞれの調査が書かれた間に行われた作業を記録している。(資料2) 2-2 参照第3葉……その作品に対して行われた「調査の一覧」と作品の「耐久性のおおまかなランク付け」と作品のこの美術館にとつての「重要性のランク付け」を入れている。(資料3)

「耐久性のおおまかなランク付け」についてはこの「保存対策シリーズ」の「その4」で詳しく述べる予定であるのでここでは省略する。「館にとつての重要性のランク付け」はあくまで参考資料である。所蔵品は皆同じ慎重さによつて保存されなければならないが、予算上の問題がこれを許さず優先順位を考えなければならない事態を招くという現実が美術館には存在するからである。

この三枚に関しては色上質紙を使用し、他の調査と識別できるようにした。
内容となる各調査、記録用紙について、以下項目別に概略する。

2、内容

2-1 現状調査

現状調査(狭義の condition report)^⑤とは点検時の状態記録であり点検結果報告書である。

愛知県美術館の所蔵作品の現状調査はA3版二つ折りとし、作品自体と付属品、梱包物までを記載の範囲とした。これは主に貸出時の対応を速やかにする目的のためである。また方式は項目選択型をあえて取り入れた。他の条件が揃えば記述式の方がよりよいと考えるが、現状では左記の目的でこの方式を選択せざる得なかった。その目的とは、作業の合理化とスタッフの誰が調査を行ってもある程度同じ結果の報告書になるようにするという

ことである。

現状調書は、油彩画用、水彩・素描用、版画用、ブロンズ用、その他立体用、掛幅用、屏風用、その他日本画用と八つの版を作成した。(資料4から11)

おのおのの現状調書の内容の項目は、例えば絵画であるなら、額縁、支持体、絵具層等の大項目に分けられ、おおむね点線左は技法材料研究を目的とした項目内容となり、点線右が変化記録を目的とした項目内容となっている。つまり左側が物質としてどう成り立っているか(作品として意図されたこと)を示し、右側がそれがその後どうなっているか(意図されていないもの)を左側の内容に対応して記録するようになっていく。これらにマップを併せて現状調書とした。開館前の調書はほとんどがマップのみである¹⁰⁾。

基本的には英語、日本語のバイリンガル版を目指している。これも主に貸出時の対応を速やかにするためであるが、併せて将来このコレクションの保存研究者がこの国の conservator になっても研究が継続されるようにするための最低の第一歩である。しかし日本の伝統技術や「もの」に適合した英訳が定まらないものが多く、英語表記は空欄が目立つ。

当館の所蔵作品に他館主催の展覧会などで点検調書が作られ、そのオリジナルやコピーが美術館に残った場合は、その形式を問わずそのまま他の現状調書とともに状態調書に入れることとしている。

2-2 作業記録(資料2)

その都度、現状調書をとるべきでもない作業であっても、後に重大な意味を帯びてくる作業もある。例えば額の内部(ガラスの内面)の清掃に伴う額の取り外しや屋外彫刻の洗浄作業などである。これらの作業は保存担当学芸員のみならず愛知県美術館では学芸員も行う事があるし、委託業者(額業者、輸送・展示業者)が行う事もある。

このため、いつ誰がどんな作業を作品に対して行ったかを記載するようにした。

この用紙が全作品に用意されるまでの作業記録は保存担当学芸員が日々の作業日誌に書き留め、現在日誌の方から各作品ごとの作業記録へ転記中である。しかしその他のスタッフへの説明と依頼が不徹底でこの用紙については未だに記載されたりしなかったりと非常に不揃いである。

2-3 委託による調査記録と修復記録

日頃行う観察と考察では、わかる事とわからない事がある。例えばブロンズ作品の酸化皮膜の同定等はどうしても科学的な分析が必要であるし、館内にこれらを行う分析機器を持つ計画はない。これらのように特別な装置、

技術を要する調査は館外に委託している。また修復に関連した調査も重要な資料である。修復を実行するにあたり修復家は詳細な検査を行うが、これは修復を前提にしなければ行えない試験も含まれる。例えば溶剤テストなどがその良い例である。もちろん修復家はその結果を元に考察を行い、修復方針を決定して行くわけであるが、その考察とともに、考察の元となる試験の結果もまた美術館として記録する必要がある。当然修復作業中の資料も記録される。この修復周辺の問題については「その3」で詳しく述べる予定であるのでここでは省略する。併せて美術館側が準備している調査報告書、所見書、修復計画書の様式資料も今回は省略する。

2-4 所見書

学芸員や保存担当学芸員が、何かの機会に特定の作家、作品に通常以上の見識を得ることができた場合、この書式でもって、その意見や印象を残すようにしている。何かの機会とはいくつかの要素があるが、重要視している二項目だけ特に左記に挙げる。

一点目は、その作家の回顧展等、同時期の作品を並べる等の機会に恵まれた時、その比較から日頃とは異なる印象を作品から受け、いくつかの情報を得られることがある。例えばニスの有無や種類など修復方針を考える上で特に参考になる情報を得ることが出来る等のことである。しかし修復計画が具体化されてから、こういった機会に恵まれることは稀である。従って差し迫った修復の必要性がないものであっても、できるだけ機会を捕らえて学芸員にも協力してもらい、この所見書の内容を充実させるようにしている。（これについては「その3」で事例を挙げる。）

二点目は現存作家やその周辺の関係者から得られる情報である。展覧会や購入など学芸員は作家と接する機会が多い。そこで得た情報はただの噂話や、学芸員の個人的な知識に止めず、この様式でもってまとめてもらうか、こちらで聞き取ってまとめるようにしている。有意義な所見書が作成できるのは活発に活動する学芸員（curator）のいる美術館だからこそである。

また作家自身以外にも、その作家専属の表具師や額縁職人（額装技術者）がいる場合、そこに非常に重要な情報が有る場合が多い。こちらは保存担当学芸員の方で積極的に情報収集するようにしている。

2-5 監視員による観察記録

展示中に観覧者が作品に触れたという報告は展示室の監視員から毎日のようになされる。状況が酷いときはその都度学芸員が現場に駆けつけ作品の状況を点検している。

作品へのこういった物理的なショックは、すぐに作品に現れるものばかりではなく、その後の経年変化へ影響

を与え、ある程度時間が経過してから現れるものもあるということは、先人達の経験から伝えられてはいる事であるが、そのことを具体的に作る資料はあまりない。

ところで、愛知県美術館の監視員は美術館の使命と保存担当学芸員の研究テーマを良く理解しており、自発的にこれらの事故のデーターをまとめている。全作品についてではないが、所蔵作品の内、展示室での展示が続いているものに関して、作品毎に調書をつくり、触れられた場所はマップに、その時の状況については文章でまとめられるようになっていて書式を作成し、実践している。これはあくまでも美術館側が選択したことではない。ボランティア的善意の賜である。この熱意と愛情に感謝しながら、この資料も他のものと同様に綴じこむこととした。いずれこの資料の蓄積からも保存上の課題との関連が浮かび上がってくるものと信じている。

3、過去の流れと現在の作業

作業は、ファイリング・ボックスに全作品のそれぞれのファイリング・ポケットを作り、旧館より引き継いだ資料、及び準備室時代に写真撮影と平行して行われた現学芸員による状態記録のマップ等を分類する事から始まった。

開館当時に用意されていた作品カードは保存を目的とした記録と美術史的な資料の集積、及び管理目的をすべて兼ねた形で作成されており、二年ほどはそのカードの中のマップに観察記録を記載していた。現在これらのマップ部分はコピーされ、他の現状調書と共に綴じられつつある。

現状調書の様式作成に取りかかったのは二年後からだが、様式はその都度試行錯誤を繰り返して、愛知県美術館保存担当学芸員用現状調書の様式の方針が定まったのは五年後、様式を作り出してから三年後の事である。

これらの調査は、額に入っているものを額からはずす、ブロンズ作品は裏からも観察するなど、一人では出来ないことも少なくない。そのため現在もすべての作品の調書を完成していないし、調書のすべての項目が調査された作品は所蔵作品の中でもわずかなし。収集作品は収集委員会前にすべて調書をとるようにしているが、既存の所蔵作品は貸出作品を中心に、年間で油彩、日本画、立体等が三十点、素描、版画類が百点ぐらいのペースで調査し記録している。記載できる調書項目もそれぞれの三分の二ぐらいである。

4、今後の課題

現状調書（資料4から11）、用語、表記、分類（資料13、14）は作品と向き合って調査をすればするほど、改訂

版を作る必要性を発見する。今後もまだ改変は続くと思しているが、一応最新版を資料編に入れたのは、今の段階で方針を明らかにしておくことについては意味があると考えているからである。海外において各美術館、団体等が発表するstandards&manualといったものでさえ、何年かすれば改変される。それがないとすれば、進歩がないということにも解釈できる。

状態調書をテーマに書かれたものは海外では多くの前例があるのに対し、国内ではほとんど前例がない⁽¹⁾。この拙稿に対して、各方面の専門家から御指導を受けられることを期待すると同時に、それを受けた改訂版を再び愛知県美術館から、できれば自分自身の手で出したいと思っている。その時は同時に全体の構成も改良する必要性が生じるであろう。

また、愛知県美術館が今後計画的に整備拡張しようとしているコンピューターとの関連、分担等についても、まだまだたくさんの課題を抱えている。

おわりに

「愛知県美術館の保存対策」のシリーズは論文ではなく、実践記録である。

内容を構成する一つ一つの方法論に目新しいものはない。美術館によつては当たり前のところもあるであろう。しかしこの新しい美術館においての実際の活動は、時としての外れの誤解を受けることがある。そのために各回のテーマにそつて、もう一度基本的なことから「何を」「何のために」するのか、また「何からは始めるのか」を明らかにしたいと思う。

前号の「その1」冒頭で述べているとおり、筆者は保存を専門とする学芸員として現在のところ在职しているが、この職にconservatorの英訳を当てて良いものかどうか躊躇がある。

一九九七年現在、日本の美術館(museum of fine art)で保存修復を専門の研究分野とする研究者は五人しかないと言われている。そしてその五人の専攻分野や、その職に就くまでの教育の過程、及び現在の仕事の内容と方針は各人各様である。一方において「日本の美術館にもやはりconservatorという専門職が必要ではないか。」という議論はさして新しいものではないのである。

欧米の細分化、かつ組織化の進んだ美術館の先例を見たとき、これから日本の美術館にもこの専門職は増えてゆくと信じて疑わないが、いきなり欧米のそれと同じものが日本に生まれるとも思わない。

愛知県美術館は冒頭で述べたとおり広範囲な技法材料による所蔵作品を所蔵している。アメリカであるならconservatorとして絵画(タブロー)、版画・素描(紙作品)、彫刻(立体)と最低三分野の専門研究者が必要な所

である。それに対してももちろん conservation 専門研究者は現在一人である。

また「その1」で取り上げたテーマは engineer の仕事が多分に含まれているかもしれない。しかし現在の日本の美術館において所蔵作品の管理を行うのは学芸員であること、設備管理もこと美術館の特殊事情に関わる部分を管理しているのは学芸員であるということを、拙稿に目を通して下さる方で、美術館の外の世界の方に特に理解頂きたいと思う。また、この「その2」で取り上げたテーマはアメリカの美術館であれば、conservator の仕事ではなく、registrar の仕事に含まれるべきものが多いことも、もちろん承知している。しかしいずれにせよ、これらは作品保存を考える上で不可欠かつ基本的なことであり、美術館のスタッフの誰かがやらなければならないことであることは間違いないし、その方法は絶えず目的を整理しながら、館の方針に沿い、常により良いものが求められるべきである。少ないスタッフで欧米のそれと同格のレベルは望めない。保存担当学芸員の職を設けるとき、その職に何に焦点を絞って仕事及び研究をさせるのか、今後しばらくは各館の所蔵作品の性格と方針によって個性がでるであろう。過渡期には仕方がないことである。

ところで、愛知県美術館は唯でさえ少ない学芸員の席を一つ保存担当学芸員に割り当て、「いかに修復すべきか、ではなく、いかに修復しないようにするか、が研究テーマだ」と言う者をそこに採用し、この試みに踏み切った。このシリーズは現在のところ「その5」までを計画しており、過渡期の保存担当学芸員のあり方を模索している者が、愛知県美術館の日常業務で行っていることを一通り報告できるはずである。そしてこれは「その1」で挙げた作品を劣化に導く要因のチャート表の上で、作品のオリジナリティーを保存してゆくために、まずは美術館がしなければならないことを網羅することとなると思う。

愛知県美術館はその報告終了後、もう一度館の方針を検討し軌道修正を行なうべきだと考えている。

最後に愛知県美術館以外の美術館には、愛知県美術館のこの実験の報告を、その館の方針を検討する上での資料としていただけるなら幸いである。

謝辞

本文の内容について東京国立文化財研究所 尾立和則氏、東京芸術大学 杉下龍一郎氏、稲葉正満氏、国立歴史民俗博物館 神庭信幸氏、東北芸術工科大学 松田泰典氏から受けましたご指導ご助言に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。

また資料編についてはすでに非常に多くの方々から、資料提供、御指導を受けました。

図 2

	クヌート・ニコラウス 『絵画鑑識事典』 訳監修 黒江光彦 美術出版社 第1版、1988年	クルト・ヴェールテ 『絵画技術全集』 訳監修 佐藤一郎 美術出版社 第1版、1993年	Cordelia Rose "Courierspeak" Smithsonian Institution Press, 1993. 訳河口公生、 ジョージ木暮	森田恒之 『画材の博物誌』 央公論美術出版、第4版 1987年	ホルベイン工業株 『絵の具の科学』 央公論美術出版、第2版 1997年
support	基底材 (p.56)	支持体 (p.20)	素地、支持体 (p.236)	支持体 (p.9)	支持体 (p.145)
ground	地塗り (p.89)	地塗り (p.234)	地塗り層 (p.232)	下地 (p.12 p.149 .p158)	下地層 (p.145)

全ての方々のお名前を挙げるだけの紙面がないことのお詫びとともに、本文の御指導を頂いた先生方と同様に深く感謝申し上げます。

註

(1) 浅野徹「愛知県美術館のコレクション」『近代美術の一〇〇年 愛知県美術館のコレクション』愛知県美術館編、一九九八年、六頁—十頁

(2) 『愛知県文化会館二十年のあゆみ』愛知県文化会館編、一九七九年、三〇頁
「見ればわかる」「見なければわからない」の結論を出す人もいる。しかしこれら調査の目的に変化の記録をおくなら、この論法は根本的に誤りである。

(3) 例を二つあげる。一つ目はドイツ語からの概念である。ドイツでは油彩画の亀裂について〇・五mm以下の支持体に達するものをSpring（もちろんこの中にさらに多くの分類がある。）、幅一・〇mm以上の下層描きが見えるものをRissと呼び、特に区別しているようである。この言葉に対し佐藤一郎氏は「亀裂」と「ひび割れ」と訳し（マックス・デルナー、改訂者ハンス・ゲルト・ミューラー第十四版『絵画技法体系』美術出版社、第三版、一九八四年、六〇二頁）、黒江光彦氏、黒江信子氏、大原秀之氏らは「ひび」と「ひび割れ」と訳している（クヌート・ニコラウス『絵画学入門』美術出版社、第一版、一九八五年、一八一頁）。おそらくSpringとRissと同一の定義をもつ既存の日本語はないだろう。二つ目は油彩画を構成するそれぞれの部分に対する訳語である。例えば英語のsupportやgroundといった基本的な用語の訳でさえ、今日図2のように混在し使用されているのである。

(4) クヌート・ニコラウス氏によれば、ドイツ語のSpringとRissとは形状を表す単語であるばかりではなく、その原因をも示唆する用語である。しかし英訳すればともにcrackである（一方、Rissは素地にも使われ、その場合はtear, check, ruptureの意味である）。ただし英語のcrackにも様々な分類はある。しかし始めからSpringとRissのように、特に言葉を変えて分類はしない。むしろcrackなのかcleavageなのかの区別の方が優先されるのである（参考文献*）。しかし筆者は、ある展覧会関係者から「アメリカの調査に良く出てくる、cleavageとは、クヌート・ニコラウスの本で説明のある、ひびのことか、ひび割れのことか」と聞かれた経験がある。個人的見解を述べると修復方針を考察したり学術的な検証を行う場合は、ドイツ語の分類は有意義である。しかし変化記録としては、アメリカで整理されつつある英語の方が便利である。

* Sheldon Keck, 'Evidences of Deterioration in paintings', *Technology and Structure of Works of Art*.

I and III, (New York University-Institute of Fine Arts-Conservation Center 1966), p.3; Buck Richard D. 'What is Condition in a Work of Art', *Bulletin of the American Group-ICC*, 12:1, (1971), pp.63-67. ; 'Trial Outline of Conservation in the Arts', *Bulletin of the AIC*, 14:1, (1973), pp.6-11. ; Glossary *Matte Paint* AATA, Volume 30, (1993)

- (6) 例えば軸箱の代表的形状に印籠蓋というものがあるが、これは場所によっては薬籠蓋と呼ばれる。(山本元『表具の栞』芸艸堂、初版、一九七四年、二六四頁)

- (7) AIC (The American Institute for Conservation of Historic & Artistic Works)・前身はICC American Group) & AATA (Art and Archaeology Technical Abstracts) 等が常につきの問題を重視している。AATA の一九九三年版(*Matte Paint* AATA, Volume 30, 1993)のGlossaryを見ると、かつては良く見かけた'scratch (掻き傷)'という言葉はなくなった。すなわち憶測の加わりがちな原因に起因する言葉ではなく、摩擦傷(abrasion)だけなのか、絵具層がなくなった部分(loss)があるのか、結果を重視した用語を中心としたらしいと解釈している。

- (8) 商業上の表示は特に気をつけないといけない。1990年代の文房具屋の店頭では、特に「不透明水彩絵具」と銘打つてあるものは、学童用あるいは習作用の比較的廉価な原材料で作られた絵具のことを表しているらしい。決してグアッシュやポスターカラーのことを表しているわけではない(森田恒之『画材の博物史』中央公論美術出版、第四版、一九八七年、二一〇頁)。同様に「透明水彩絵具」とは「専門家用絵具」と同じく、商品価値に対する言葉として用いられることもあるようである。このような例は非常に多い。

- (9) 狭義のcondition reportを特に切り放して現状調査と名付けた。従って愛知県美術館の現在の保存担当学芸員はこれら一連の調査をとりまとめたもの(広義のcondition report)を以後状態調査と呼ぶ。なお、企画展用のものを点検調査と呼ぶ。

- (10) 企画展等で必要な作品借用のための点検調査とは、変化記録の目的で作られ、必ずしも技法材料の研究資料の機能を必要としない。従ってその他の企画展特有の付随事項を加え、その都度展覧会担当者とともに別の様式を作っている(資料13はその一例)。

その他の付随事項の内、現在研究中の項目は保険への対応である。日本ではまだあまり聞かれないが、海外の保険会社はこれら美術品の移動についての保険に対して、基準を設け出しているところが増えていると聞いている(企業ではないが例えばイギリス等、国で保険を肩代わりしている美術館の貸出条件は非常に厳しい)。それらの条件が、内容的に大変なこと細かく具体的なのは、最終的な目的はもちろん作品の保存ではあるが、その手続きに保険の問題が介入するからだろうと解釈している)。それらの基準の中にはやはりコンデ

イシヨン・レポートが重要な意味を持っているようである。おそらく今後は日本の保険会社も同じ様な方向へと進まざるえないであろう。現実に保険会社の担当者から、なかなか専門的な内容の照会がくることがある。今後は方が一に備えた事故の証明書(事故現認書)としての機能をどう持たせるかが点検調査を作る上での重要な課題であろう(この点が *registered* 不在の美術館の保存担当学芸員が、自分を *conservator* と呼ぶのに躊躇を感じる理由の一つである)。なお、この点検調査の作成方法について非常に些末なことを加えたい。企画展には必ずカタログが作成され、展覧会に先だって色校正用としてカタログの図版見本が届けられる。現在、印刷会社には二部提出して頂くよう展覧会担当者を通じてあらかじめ依頼している。色校正以前であるので色については若干問題はあるが、白黒のコピーよりはるかに調書に適している。愛知県美術館ではこの上にトレーシングペーパーを重ね、書き込みをするようにし、図版で確認できるものは特に書き込まない(注意事項は別である)。色校正という作業は時として、シミや汚れを意図的に削除するという作業も含まれるので、校正以前のものを使うのは非常に都合がよい。但し同じ理由で、ポジフィルム等の傷や汚れ等が写っている場合もある。後に誤解を招かないよう点検時には図版上の異常が、作品の上のものなのか、ポジフィルムや印刷過程によるものなのかを確認しておく必要がある。

国内に於ける実践の報告は非常に少ない。知る限りでは岩崎友吉「修復技術部における保存修復記録カードの作成について」『保存科学』一三、一九七四年において、東京国立文化財研究所の修復技術部の「修復技術部カード記述要項」の紹介が、「絵画作品に対する調査記録の実際」『明治前期油画基礎資料集成 図版編』一九九一年において東京芸術大学所蔵作品の作品状態記録表と写真記録表が紹介されているぐらいである。いずれにせよ紹介の範囲を出ていない。用語については『別冊美術手帳 油絵のマテリアル 材料十道具総カタログ』一九八三年夏号における、森田恒之氏らの塗膜に関する日本工業規格に準拠した亀裂の分類などの試みはあるが後が続かなかった。一方例えばアメリカでは一九六〇年代にはこの議論は始まり、七〇年代にはかなり多数の論文が発表された。それらの報告をめぐって討議がなされ、美術館毎の *standards* や *manual* あるいは教育機関のテキストとして徐々に統合されてきたのである。また現在も、より広範囲な領域の人達に正確に伝達がなされるように努力は続けられている。

さらに現在では、それら組織間、国家間の統合がコンピュータ・ネットワーク化の問題と併せて国際レベルでの今日の課題である。日本は日本の何を基準として、各国との統合を図るのか興味深い問題である。

資料1 状態調書索引 (表紙)

REPORT INDEX	大 展 覧 記 録 表 紙
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館	
1-13-2 HIGASHISAKURA, HIGASHI-EU, 461, NAGOYA, JAPAN	
〒461 愛知県名古屋市長区東桜1-13-2	
TEL.052-971-5511 FAX.052-971-5604	

資料 2 作業記録

TREATMENT RECORD		作業記録書	
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館 1-13-2 NIGASHISAKURA, NIGASHI-KU, 461, NAGOYA, JAPAN 〒461 愛知県名古屋市中区東区1-13-2 TEL.052-971-5511 FAX.052-971-5804			

資料 3 試験記録

EXAMINATION INDEX		試験 科目 目 一 要	
No	作家名		
作品名			

試験項目	目付		
計測			
計量			
斜光下観察			
斜光照射撮影			
透過光観察			
透過光撮影			
紫外線下観察			
紫外線下撮影			
赤外線下観察			
赤外線下撮影			
顕微鏡観察			
顕微鏡写真撮影			
X-ray撮影			
定性分析			
定量分析			
3Dイメージングの作製			
作者・関係者からの 提供収集			

耐久性のおおまかなランク	重要度のランク

資料4-1 油彩画の現状調査書

MAP

Packing case 梱包ケース

case 専用箱の有無	*none なし	*slot 差し込み型	*tray はめ込み型
	*face up 面 up	*face down 面 down	
material 材質	*wood 木	*cardboard 厚紙	*others その他
	*urethane ウレタン	*ethafoam エサフォーム	*polyester foam 発泡スチロール
belongs 付属品	*none なし	*cloth sheet 布、さらし	*cloth bag 布袋
	*mirrorplate ミラープレート	*hook 吊り金具、t-t ミラープレート	*strap つり紐、 bubblewrap エアキャップ
packing 梱包材	*thin paper 薄紙	*kraft paper クラフト紙	*plastic sheeting ビニルシート
	*acid-free thin paper 無酸薄紙		

*Tape the glass
ガラス上にテープを貼ってください
*Wear white gloves
白手袋を付けてください。

*Do not tape
テープを貼らないでください。
*Do not turn over.
天地順守 逆さまにしないでください。

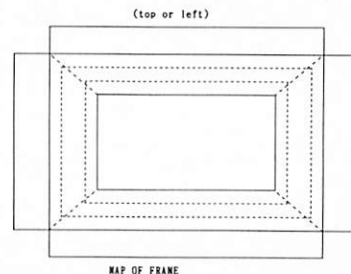
CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査書
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, NIGASHI-KU,
461-8525, NAGOYA, JAPAN
TEL.052-971-5511 FAX.052-971-5604

No	
----	--

date 日付	examiner 検査者	location 場所	℃, RH 温湿度
.....			
.....			
.....			

object type / medium 分類、技法材料
dimensions (frame)
height 高さ
width 幅
thickness 厚さ

remarks 特記事項



frame 額

framed 額装	*yes	*no
glazing ガラス等	*none なし	
	*float glass フロートガラス (含む ユーザーガラス)	
	*laminated glass 合わせガラス	
	*low-reflect glass 低反射ガラス	
	*organic glass アクリル、ポリカーボネイト板等	
work is secured by	*nails 釘留め	*metal plates 金具留め
backboard is	*none なし	*cardboard 厚紙
	*gatorfoam ガタフォーム	*organic glass アクリル等
backboard is secured by	*nails 釘留め	*tape テープ留め
	*metal plates 金具留め	*others その他

remarks 特記事項

condition of frame 額の状態
*good *fair *poor

fitting of work 作品固定

*adequate
*inadequate

structure 構造体

*distortion
ゆがみ
*check
ひび

decoration 化粧部分

*abrasion
すり
*stain
しみ
*grime
汚れ

*plexi-scratch
アクリル板の傷

資料4-2 油彩画の現状調査

support 支持体

*cloth 布による支持体	*flax 麻	*cotton 木綿	*others その他
fiber 繊維			
weave 織り	*plain 平織り	*twill 綾織り	*others その他
thread (per.cm) 織り目数			
attached by 張り込み	*tacks 小綱	*staples 2777's	*nails 釘
keys 楔	*none	*yes No.	
line 裏打ち	*none なし	*line 綾裏打ち	
	*losse-ling A-27(ニッ)	*strip-ling 2777'ライ(ニッ)	
fiber 布	*flax 麻	*polyester A'9127's	
	*others その他		
adhesive 接着剤	*wax ワックス	*glue 膠	*beva 'A'N'
	*others その他		

*board support 板

*wood 木板	*straight grain 板目	*end of lumber 木口
	*cross grain 板目	
*composition board 合成板、人造板	*plywood (veneer) 合板、ベニア板、コンパネ	
	*particle board 屑片板	
	*fiber board(hard board, Masonite) 木質繊維板(メソナイト)	
	*lumber core(block board) 材心合板	
cradle 組木の有無	*none	*yes

*paper support 紙

*cardboard 厚紙	
*others その他	
*none なし	*window mat 窓マット
*lined 裏打ち	*backed 台紙付き

condition of support

*good	*fair	*poor
*distortion in plan 平面性の欠落		
*buckling 繊維方向の波打ち	*draw つれ離	
*waving 波打ち	*mark あたり	
*bulge ふくらみ	*dent へこみ	
*keys loose 楔のゆるみ	*keys missing 楔の紛失	
*sagging キャンバスのたるみ		

*defects in plane 平面性の欠落、ひずみ

*concave warp 凹状のそり	*convex warp 凸状のそり
*cup 椀目	*bow 縦ぞり
*buckling 波打ち	*twisted ねじれ
*crook 曲がり	
*check ひび	*rupture ひび割れ
*crack 亀裂	

*distortion in plan 平面性の欠落、ひずみ

*distortion in plan	
平面性の欠落　ひずみ	
*buckling	*draw
繊維方向の波打ち	つれ離
*waving	*mark
波打ち	あたり
*crease	*wrinkling
おれ	縮縮離
*embrittlement	*yellowing
脆弱化	黄変化
*tear	
破れ	
*hole	*pin hole
穴	ピン穴

*missing part 部分の紛失

*insect damage 虫害	
*mold damage 黴害	

*disjoin 接合不良

design area(ground-paintfilm-surface) 画層

ground 地塗り層	*none なし	*commercial application 市販品
	*artist's application 手製	
	*achromatic color 無彩色	*chromatic color 有彩色
paintfilm 絵の具層	*oil 油	*tempera 1787's2 混在技法
	*egg tempera 卵テンペラ	*casein tempera 乳白テンペラ
	*acrylic 7777's2 絵具	*other synthetic resins その他合成樹脂絵具
	*remarks of medium	
technique 技法	*glaze グレーズ	*bleed アラド置き
	*remarks of technique	*drying crack 乾燥亀裂

about white 白について

	*silverwhite 2777CO ₂ -Pb(OH) ₂	*zincwhite ZnO
--	---	----------------

about black 黒について

--	--

about red 赤について

--	--

about blue 青について

--	--

about green 緑について

--	--

about yellow 黄色について

--	--

about others その他について

--	--

structure/remarks

--	--

surface 表面

*unvarnish ニスなし	*matvarnish 艶なしニス	*glossvarnish 艶ありニス
*thick 厚塗り	*thin 薄塗り	*by brush 刷毛塗り
*species 種類		

condition of design area

*good	*fair	*poor
*crack 亀裂		
*check ひび		
*traction crack 牽引性亀裂		
*cleavage 剥離、浮き上がり		
*open cleavage 開口剥離		
*cupped cleavage 碗状剥離群		
*backing cleavage 収縮性剥離群		
*loss 剥落		

*crackle-net 網状亀裂群

*concentric circle cracks 同心円状の亀裂群	
------------------------------------	--

*fishbone shaped cracks 枝状亀裂群

*powdering off 微細剥落群	
----------------------	--

*discoloration of medium 顔料材の変色

*discoloration of pigment 顔料の変色	
---------------------------------	--

*abrasion すり傷

*grise 汚れ	*stain しみ
-----------	-----------

*accretion 付着物

*spotting 点状付着物	
-----------------	--

*insects damage 虫害

*mold damage 黴	
----------------	--

*blooming ブルーミング

*efflorescence 結晶体	
--------------------	--

*yellowing 黄変化

*embu 艶ムラ、部分的な艶引け	
-------------------	--

damage history 損傷履歴

--	--

former treatment 修復履歴

--	--

資料5-1 水彩画・素描の現状調査

MAP

Packing case 梱包ケース

case 専用箱の有無	*none なし	*slot 差し込み型	*tray はめ込み型
	*face up 面上	*face down 面下	
material 材質	*wood 木	*cardboard 厚紙	*others その他
	*urethane ウレタン	*ethafoam エサフォーム	*polyester foam 発泡スチロール
belongs 付属品	*none なし	*cloth sheet 布、さらし	*cloth bag 布袋
	*mirrorplate ミラープレート	*hook 吊り金具、ヒートン	*strap つり紐、
packing 梱包材	*thin paper 薄紙	*kraft paper クラフト紙	*bubblewrap エアークラップ
	*acid-free thin paper 無酸薄紙		*plastic sheeting ビニルシート

*Tape the glass
ガラス上にテープを貼ってください
*Wear white gloves
白手袋を使ってください。

*Do not tape
テープ厳禁
*Do not turn over.
天地厳守 逆さまにしないでください。

CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHISAKURA, HIGASHI-KU, 461, NAGOYA, JAPAN
〒461 愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
PHONE. 052-971-5511
FAX. 052-971-5804

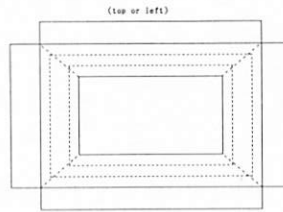
No	
----	--

date 日付	examiner 検査者	location 場所	℃, RH 湿度

dimensions image size イメージサイズ	height 高さ	width 幅	sheet size 紙サイズ	height 高さ	width 幅	frame size 額サイズ	height 高さ	width 幅
mount size マウントサイズ	height 高さ	width 幅	汎用額の種類 ※変形大 1000*700	※大全 727*545	※三々 605*455	※大衣 509*394	※四切り 424*348	

edition 1/2 版数

form 形状	*mounted マウント装	*backed 台紙付き	*lined 裏打ち付き
	*leaf 作品だけ（ペーパー）	*book 冊子状	*double 二つ折り
	*joint sheets 繋ぎ合わせの状態	*scroll 巻	



framed 額装	*yes	*no
glazing ガラス等	*none なし	
	*float glass フロートガラス（含ミュージアムガラス）	
	*laminated glass 合わせガラス	
	*low-reflect glass 低反射ガラス	
	*organic glass アクリル、ポリカーボネイト板等	
backboard is secured by 裏面の固定方式	*screw 釘留め	
	*acetalplates * 金具留め	* とんぼ
	*tape テープ留め	
	*other その他	

condition of frame 額の状態
*good *fair *poor

fitting of work 作品固定
*adequate
*inadequate

*distortion ゆがみ
*abrasion すれ傷
*stain しみ
*disjoin 接合不良
*plexi-scratches
アクリル上の傷

remarks 特記事項

資料5-2 水彩画・素描の現状調査

mounting マット装

*none なし	*only window-mount 一枚窓マットのみ	*only back-mount 裏マットのみ
*single 2重	*separate 分離型	*book style ブックマット
window size マットの窓サイズ		
*height 高さ	*width 幅	
*thickness of mount マットの厚さ	*window-mount 上マットの厚み	*back-mount 下マットの厚み
fixed by 作品の固定方法	*pendant-hinji ハンギング	*folded-hinji 折り曲げヒンジ
	*glued all edges 四辺糊留め	*glued corners 四角糊留め
*others その他		
fixed to 窓マット	*window-mount 窓マット	*back-mount 裏マット
style 作品へのマットのかかりのないマット装	*float mount(over ray) 作品へのマットのかかりのないマット装	

remarks 特記事項

condition of mount
*good *fair *poor

fitting of work

*adequate

*inadequate

acidity of environment
環境の酸性度

*good *fair *poor

それぞれの素材の酸性度

*over mat pH

*under mat pH

*back buffer pH

酸性度調整紙

(裏挿入アルカリ紙)

*coat paper(thin paper) pH

窓の差し込み紙

(保存時に窓下に入れる薄紙)

support 支持体

*paper	*wood pulp paper 木材パルプ紙	
	*rag paper ラグペーパー	*S.F.X.Rives BFIリブ紙
		*Arches アルシュ
	*Japanese paper 和紙	*sampl 刷皮紙、鳥の子
	*cardboard 厚紙	*glassine トレンツァン
	*laid paper 罫の目紙	*wove paper 罫目紙
water marks 透しの有無	*no	*No.
tone plate トプレートの有無	*no	*No.
plate mark 版木の跡の有無	*no	*vague *clear

sharp of edge 紙の4辺の形状

	upside edge	bottom	right	left
original edge すきっぱなし				
tear やぶり				
water cut 噴き				
cut 切断				

signature サインの形状

location 場所		
composition 組成	*pencil	*ink

condition of support
*good *fair *poor

*distortion in plan
平面性の欠落

*buckling
縦横の方向性にそった

*sawing
波打ち

*bulge
ふくれ

*wrinkle
皺

*tear
破れ

*hole
穴

*missing part
欠損

*insect damage
虫害

*discoloration
変色

*grain
汚れ

*stain
しみ

*foxing
フクシング

*draw
つれ、つれ

*mark
あたり

*crease
折れ

*pin hole
ピン穴

*disjoin
接合不良

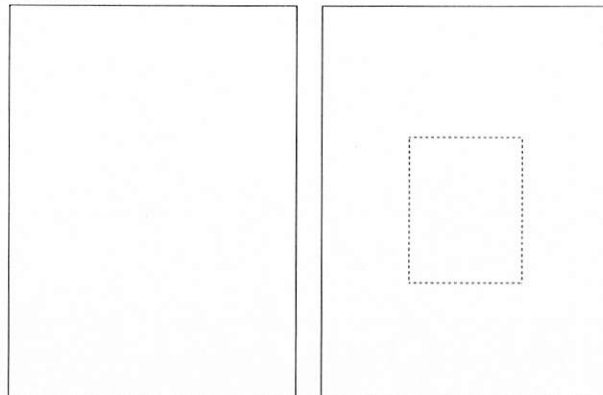
*solid damage
脆害

*abrasion
すり

*yellowing
黄変

*embrittlement
脆化、ヤケ

map of paper



verso

(bottom or right)

design area 彩色部

*凸	*wood cut 板目版画	*wood engraving 木口版画
	*lino-cut リノカット	*others その他
*intaglio 凹	*hand インク・レ・ビ・ンク	*engraving(gravure duburin) インク・レ・ビ・ンク
		*drypoint(pointe-seche) ドライポイント
		*etching(eau-forte) インク・レ・ビ・ンク
		*aquatint アキアティン
		*mezzotint(mezziere noire) メゾティン
*lithograph リトグラフ	*monotype モノタイプ	
*silk-screen print シルクスクリーン	*stencil ステンシル	
*colored print 手彩色の有無	*no	*No.

condition of design area 彩色部の状態

*good *fair *poor

*crack ひび

*cleavage 浮き上がり

*loss 剥落

*discoloration 変色

*faded 退色、色あせ

*abrasion 擦れ

*grain 汚れ

*stains しみ

資料6-1 版画の現状調査

MAP

Packing case 梱包ケース

case 専用箱の有無	*none なし	*slot 差し込み型	*tray はめ込み型
	*face up 面上	*face down 面下	
material 材質	*wood 木	*cardboard 厚紙	*others その他
	*urethane ウレタン	*ethafoam エサフォーム	*polyester foam 発泡スチロール
belongs 付属品	*none なし	*cloth sheet 布、さらし	*cloth bag 布袋
	*mirrorplate ミラープレート	*hook 吊り金具、ヒョウ	*strap つり紐
packing 梱包材	*thin paper 薄紙	*kraft paper クラフト紙	*bubblewrap エアキャップ
	*acid-free thin paper 無酸薄紙		*plastic sheeting ビニルシート

*Tape the glass
ガラス上にテープを貼ってください
*Wear white gloves
白手袋を使ってください。

*Do not tape
テープを貼らないでください。
*Do not turn over.
天地順守 逆さまにしないでください。

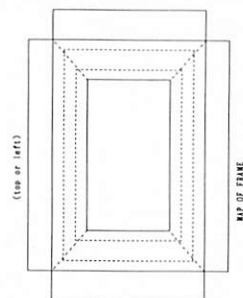
CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査書
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, HIGASHI-KU,
461-8525, NAGOYA, JAPAN
〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
PHONE.052-971-5511 FAX.052-971-6804

No.	

date 日付	examiner 検査者	location 場所	℃, RH 温湿度

dimensions 紙サイズ	height 高さ	width 幅	frame size 額サイズ	height 高さ	width 幅
mount size 797×412	height 高さ	width 幅	汎用額の標準 *実形大 1000×700	*大全 727×545	
			*三々 805×455	*大表 509×394	
			*四切り 424×348	*	

form 形状	*mounted マウント装	*backed 台紙付き	*lined 裏打ち付き
	*leaf 作品だけ(ペーパー)	*book 冊子状	*double 二つ折り
	*joint sheets 繋ぎ合わせの状態	*scroll 巻	



frame 額

framed 額装	*yes	*no
glazing ガラス等	*none なし	
	*float glass フロートガラス (含ミューリアムガラス)	
	*laminated glass 合わせガラス	
	*low-reflect glass 低反射ガラス	
	*organic glass アクリル、ポリカーボネイト板等	
backboard is secured by 裏面の固定方式	*nailed 釘留め	
	*metal plates 金属留め	*tongue and groove 落とし込み
	*tape テープ留め	
	*other その他	

condition of frame 額の状態

*good *fair *poor

fitting of work 作品固定

*adequate

*inadequate

*disjoin 接合不良

*distortion ゆがみ

*abrasion すれ傷

*stain しみ

*loss 欠損

*plexi-scratches

アクリル上の傷

remarks 特記事項

資料6-2 版画の現状調査書

mounting マット装

*none
なし

*single
一枚

*double
2重

*only window-mount
窓マットのみ

*separate
分離型

*only back-mount
裏マットのみ

*book style
ブックマット

window size マットの窓サイズ

*height
高さ

*width
幅

*thickness of mount
マットの厚さ

*window-mount
上マットの厚み

*back-mount
下マットの厚み

fixed by
作品の固定方法

*pendant-hinji
ペンダントヒンジ

*folded-hinji
折り曲げヒンジ

*glued all edges
西辺留め

*glued corners
西角留め

*others
その他

fixed to
窓マット

*back-mount
裏マット

*float mount(over ray)
作品へのマットのかかりのないマット装

remarks 特記事項

map of paper



verso

(bottom or right)

condition of mount

*good *fair *poor

fitting of work

*adequate

*inadequate

acidity of environment
環境の酸性度

*good *fair *poor

それぞれの素材の酸性度

*over mat
上マット

*under mat
下マット

*back buffer
酸性度調整紙
(裏挿入アルカリ紙)

*coat paper(thin paper)
窓の差し込み紙
(保存時に窓下に入れる薄紙)

pH

pH

pH

pH

support 支持体

*paper

*wood pulp paper
木材パルプ紙

*rag paper
ラグペーパー、コットン紙

*Japanese paper
和紙

*cardboard
厚紙

*glassine
ヒュンダク、ヒュン

*parchment
羊皮紙

*others
その他

water marks
透しの有無

*no *No.

sizing
サイズ調整の有無

*yes *no

polish
磨きの有無

*yes *no

map of verso



design area 彩色部

ground
地塗りの有無

*yes *no

composition
組成

*pencil
鉛筆

*water color
水彩絵具

*ink
インク

*pastel
パステル

*scratch
掻きだし

*collage
貼り合わせ

*fixative
定着液の有無

*conté
コンテ

*souce
グワッシュ

*Japanese ink
墨

*others
その他

*frottage
擦出し(凹凸)

*others
その他

*yes *no

condition of support 紙の状態

*good *fair *poor

*abrasion
擦れ

*distortion in plan
平面性の欠落

*buckling
縦横の方向性による皺

*waving
波打ち

*bulge
ふくれ

*wrinkle
皺

*tear
破れ

*hole
穴

*missing part
欠損

*insects damage
虫害

*discoloration
変色

*dirt
汚れ

*stain
しみ

*foxing
フクシング

*draw
つれ、つれ

*mark
あたり

*crease
折れ

*pin hole
ピン穴

*disjoin
接合不良

*burnt
焼け跡

*embrittlement
硬化、ヤケ

*mold damage
菌害

remarks 特記事項

condition of design area 彩色部の状態

*good *fair *poor

*crack
ひび

*cleavage
浮き上がり

*loss
剥落

*discoloration
変色

*faded
退色、色あせ

*abrasion
擦れ

*grime
汚れ

*stain
しみ

MAP

(left side * bottom)

(back)

(top * left side)

40

資料7-2 ブロンズ作品の現状調書

material 材質

*bronze
ブロンズ
*others
その他

casting 鋳造

foundry 鋳造場所	date 鋳造年月日
method 鋳造方法	
out mold 鋳型	*green sand 砂型(乾燥型・生型)
	*plaster 石膏型
	*CO2 processes 炭酸ガス型(ガス型)
	*silicone シリコン
lost wax 蝋型	*lost wax 蝋型
core 中子	*sand 砂
finishing 仕上げ	*polishing 研磨
	*as cast 鋳出し
	*stain finish なし地

鋳造と作者との関係

原型の所在・所有者

surface 表面

*patina 金属色	
*paint 塗料	*plating メッキ
*wax ワックス	*color wax 顔料入りワックス
*others その他	
after coating コーティング(後補保護膜)	*yes あり
species 種類	*no なし

remarks of structure 構造的な留意点

*inside support 内部の補強材	*soldering ろう付け
*welding 溶接	*bolt, ボルト、ナット

damage history 損傷歴

former treatment
修復歴、コーティング歴

stability of work 作品の安定
*good *fair *poor

condition of casting 鋳造の状態
*good *fair *poor

*crack
亀裂
*shrinkage
収縮
*streak flaw
地きず
*pin hole
ピンホール(針孔)
*blow
きらい
*penetration
さしこみ、めさし

*
中子や心金の残り
*stain spot
しみ

condition of work 作品の状態
*good *fair *poor

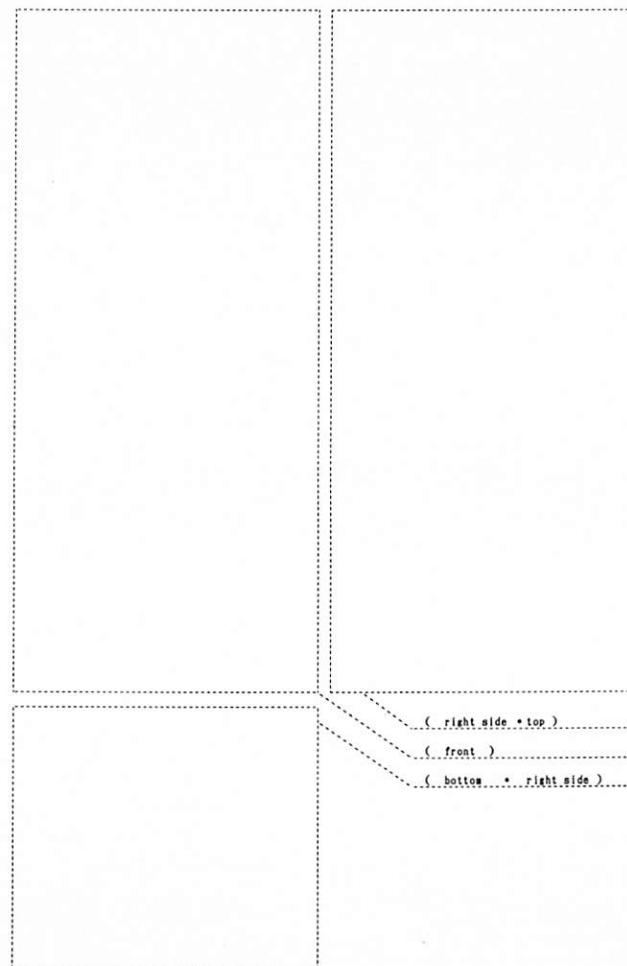
*corrosion
腐食
*erosion
侵食
*bronze disease
ブロンズ病
*fatigue failure
金属疲労
*deformation
変形

condition of surface 表面の状態
*good *fair *poor

*discoloration(tarnish)
変色
*acid line
虫食
*accretion
付着物
*grime
汚れ
*abrasion
すれ

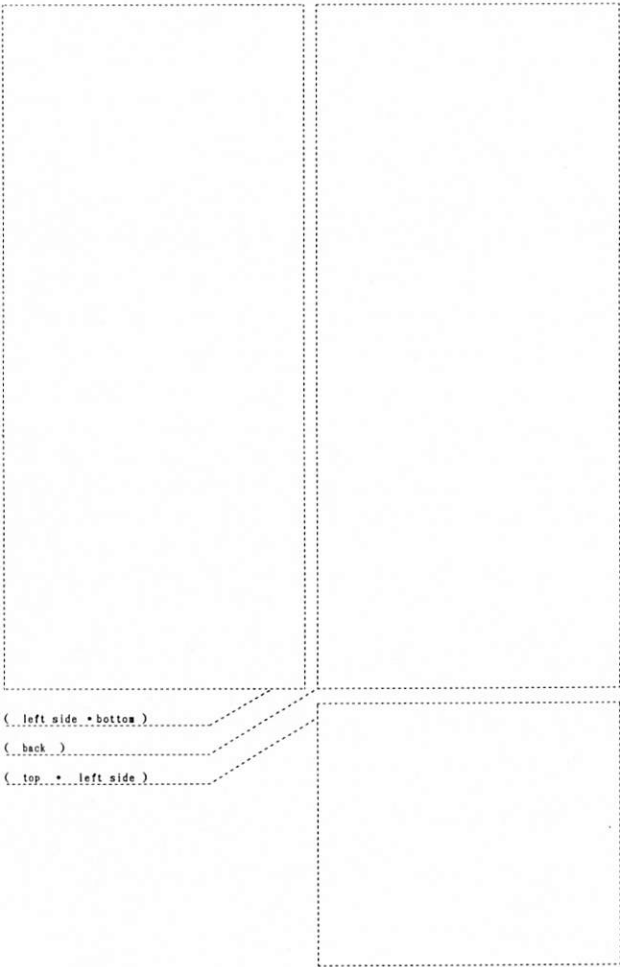
*disjoin
接合不良
*loose joint
ゆるんだ接合

MAP



資料8-1 その他立体作品の現状調査

MAP



(left side + bottom)

(back)

(top + left side)

CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, HIGASHI-KU,
461-8525, NAGOYA, JAPAN
〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
PHONE.052-971-5511 FAX.052-971-6804

No.	
-----	--

date 日付	examiner 検査者	location 場所	℃, RH 温湿度

number of pieces or parts 構成要素の数	*Wear white gloves. 白手袋を使ってください。 *Wear latex gloves. ゴム手袋を使って下さい。 *Do not wear gloves. 手袋を使わないで下さい。
dimensions 大きさ () 内は台座	
height 高さ	
width 幅	
depth 奥行き	weight 重さ

packing case 梱包ケース

case 箱の有無	*none なし	*brace packing 抑え材梱包	*cavity packing 作品型くり貫き梱包	*open creat 開放型木箱
	*air tight case(closed) 気密性の高い箱	*adabatic case(isolation) 断熱性の高い箱		
belongs 付属品	*none なし	*metalplate 金属板	*others その他	
	*number of bolts ボルトの数	*number of nuts ナットの数		
packing 梱包材	*thin paper 薄紙	*polyethylene sheeting ポリエチレンシート	*bubblewrap エアキャップ	
	*cloth sheeting 布、さらし	*plastic sheeting ビニルシート	*others その他	

pedestal 台座

	*no	*yes	*original オリジナル
material 材質	*wood 木	*stone 石	
	*metal 金属	*others その他	
fixed by 固定方法	*none なし	*anchorbolt アンカーボルト	
	*adhesive 接着剤	*coking コーキング	
	*others その他		

stability of pedestal 台座の安定性	*good	*fair	*poor
condition of pedestal 台座の状況	*good	*fair	*poor
*loss 剥落			
*abrasion すり			
*stain しみ			
*crack 亀裂			
*check ひび			
*missing parts 部分の紛失			
*disjoin 接合不良			

structure/remarks/handling considerations

資料8-2 その他立体作品の現状調査

material 材質

*bronze ブロンズ	*steel 鉄	*stainless steel ステンレス
*wood 木	*bamboo 竹	*paper 紙
*clay 土	*stone 石	*plaster 石膏
*glass ガラス	*resin 樹脂	*acrylic アクリル
*others その他		

technique 技法

*carving 彫		
*modelling 塑		
*embossing 叩く、押し出す		
*burnt 焼成		
*cut 切る		
*put on 置く		
*adhesive 接着剤の使用		
*welding 溶接	*soldering ろう付け	
*nail, screw 釘、ネジ	*bolt, nut ボルト、ナット	
*reveting 継接	*hammer welding 鍛接	
*inlaid 象嵌	*others その他	
*others		

function 機能

*none なし	*mechanical 機械的動力
*electric 電気的動力	*others その他

原型・設計図の所在・所有者

surface 表面

*patina 金属着色	
*paint 塗装	*plating メッキ
*wax ワックス	*color wax 顔料入りワックス
*others その他	
after coating コーティング (後補保護膜)	*yes
species 種類	*no

damage history
損傷歴
former treatment
修復歴、コーティング歴

stability of work 作品の安定

*good *fair *poor

condition of work 作品の状態

*good *fair *poor

*tear やぶれ	*hole 穴
*distortion ひずみ	
*check ひび	*crack 亀裂
*disjoin 接合不良	
*missing part 部分の紛失	
*solid damage 脆害	
*insects damage 虫害	
*corrosion 腐食	
*erosion 侵食	
*spalling 片状剥離	

condition of function 機能の状態

*good *fair *poor

condition of surface 表面の状態

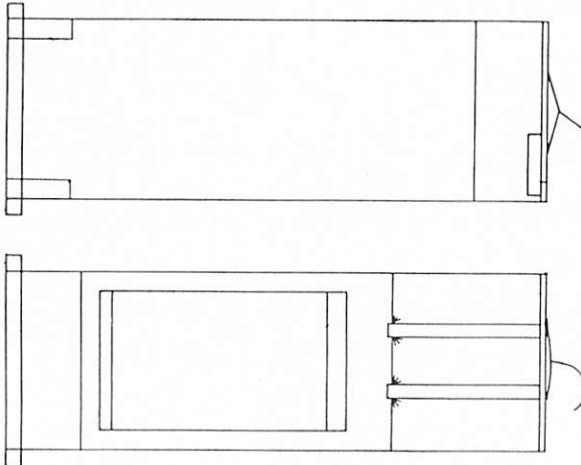
*good *fair *poor

*discoloration(tarnish) 変色	
*acid line 酸腐	
*accretion 付着物	
*rise 汚れ	*stain シミ
*abrasion すれ	

MAP

(right side * top)
 (front)
 (bottom * right side)

資料9-1 軸装作品の現状調書



(裏)

(裏)

CONDITION REPORT 所蔵作品現状調書
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, HIGASHI-KU,
461-8525, NAGOYA, JAPAN
〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
PHONE.052-971-5511 FAX.052-971-5804

No.	
-----	--

date 日付	examiner検査者	location 場所	℃,RH 温湿度

object type / medium 材質、技法	dimensions of 本紙の大きさ height 高さ width 幅	dimensions of 表具を含む大きさ、縫丈 height 高さ width 幅
a set of 対幅 *two 双幅 *three 三幅対		

former mount 表装歴

*The first	*when 年代	*where(who) 工房名(表具師)	*remarks 特記事項
*The second			
*The 現状の回数(若しくは回数不明)			

hyougu mount 軸装

*wall-scroll 軸	*hand-scroll 巻子本	*condition of mount (rolled) 巻いてある時の表具の状態	
*No.	*yes	*no	
*ordinary style 一般	*special style 特別(図を下記に記入のこと)		
			
活版の位置 *right *left 太巻軸の有無 *yes *no 軸頭		*good *fair *poor *good *fair *poor *good *fair *poor *missing part 欠損 *disjoin 接縫不良 *warp そり(巻いた状態での) *mold damage 霉害	
(文様名)	(材質)	(形)	(備考)

資料9-2 軸装作品の現状調査

storage box for jiku 軸箱 (梱包ケース)

*none 専用箱なし	*paper box 紙箱		
*single 一底箱	*inside box 内箱		
material 材質	*paulownia 桐	*cedar 杉	*fir 樺
	*Japanese cypress 楠	*magnolia 朴	*hypoleuca 白木
lacquer 塗り	*黒漆塗	*赤漆塗	*呂色
style 形状	*印籠箱	*文人指箱	*中次箱
	*二方棧蓋	*四方棧蓋	
	*覆蓋	*台指蓋	*差込蓋
belongs 付属品	*紐	*包装紙	*紙幣
軸の納まっている方向	*縦上		*縦下
箱蓋きの有無	*none なし		

*outsidebox 外箱	*paulownia 桐	*cedar 杉	*fir 樺
material 材質	*Japanese cypress 楠	*magnolia 朴	*hypoleuca 白木
lacquer 塗	*黒漆塗	*赤漆塗	*呂色
style 形状	*印籠箱	*文人指箱	*中次箱
	*二方棧蓋	*四方棧蓋	
belongs 付属品	*襷	*台指蓋	*差込蓋
	*紐	*包装紙	*紙幣
箱蓋きの有無	*none なし		

hyougu mount 表具

*style of hyougu mount			表具の種類
*表具の種類			表具
一文字	地	文	
中継	地	文	
上下	地	文	
	(色)	(文様名)	(綴物の名称)
風邪の有無	*yes	*no	
肌裏	*薄口緒 (美濃・石州)	*中厚緒	
増減打ち	*横 (美濃)		
縫裏打ち	*横 (宇田)		
adhesive	*生糊	*synthetic adhesive	
糊	生糊	化学糊	
縫の厚み	*有 yes	*無 no	

condition of inside or single box 内箱もしくは一底箱の状態

*good	*fair	*poor
*missing part 部分の紛失		
*mold damage 霉害	*insects damage 虫害	
*distortion ひずみ	*disjoin 接縫不良	
*abrasion すり	*crack 亀裂	
*grime 汚れ	*stain しみ	
*accretion 付着物		
remark about belongs 付属品		
*ravel 経糸		

condition of outsidebox 外箱の状態

*good	*fair	*poor
*missing part 部分の紛失		
*mold damage 霉害	*insects damage 虫害	
*distortion ひずみ	*disjoin 接縫不良	
*abrasion すり	*crack 亀裂	
*grime 汚れ	*stain しみ	
*accretion 付着物		
Remark about belongs 付属品		

condition of mount (unrolled and hung) 掛け時の表具の状態

*good	*fair	*poor
*tear 破れ	*hole 穴	
*distortion ひずみ	*disjoin 接縫不良	
*concave warp 凹み	*convex warp 凸み	
*crease しわ	*waving 波打ち	
*accretion 付着物	*grime 汚れ	
*stain しみ	*foxing フクシキ	
*runing 糸つれ	*fray はつれ	
*mark 痕跡		
風袋のあたり		

original support 本紙

*silk 料紙	*plain 平織り	*will 綾織り	*綾
*paper 料紙	*wasu 和紙	*yuzen 洋紙	*三桧紙
	*chained paper 具引紙		
質の目	*no なし	*vague 不鮮明	*clear 鮮明
water marks 透かし	*17/25	*30/40	*45/50
blurred ぼみ	*none ない	*yes あり	
technique 技法	*small 少し	*large 多し	
	*bamboo 竹	*metal leaf 金	

design area (ground-paintfile-surface) 画面

color 色材	*Japanese ink 墨	*inorganic pigment 無機顔料	*organic pigment 有機顔料
	*mica 雲母	*metal powder 金属粉	*metal leaf 金
medium 媒体	*glue 膠	*wax 蠟	
	*gum arabic アラビアゴム	*synthetic resins 合成樹脂	
technique 技法	*color 色	*red color 赤色	*synthetic color 合成色
	*isapano 塗り上げ	*abrasion こすりだし	*scratch 引っかき
	*remarks of technique 技法の備考		
metal leaf 金	*gold 金	*silver 銀	*copper 銅
structure/remarks 構造/備考			

signature 署名と落款

*hand writing 手書き	*Japanese ink 墨	*color 色
*stamp 印	*Higashi 朱	*others その他

damage history 損傷歴

former treatment 修復歴

伏裏 補綴 折れ伏せ

condition original support 本紙の状態

*good	*fair	*poor
*tear 破れ	*hole 穴	
*crease 折れ	*waving 波打ち	
*accretion 付着物	*grime 汚れ	
*stain しみ	*foxing フクシキ	
*runing 糸つれ	*fray はつれ	
*yellowing 黄変	*disjoin 接縫不良	

condition of design area 画面の状態

*good	*fair	*poor
*crack 亀裂		
*cleavage 剥離	*loss 剥落	
*support-ground 本紙と下塗り間		
*ground-paintfile 下塗りと絵の具層間		
*paintfile-paintfile 絵の具層と絵の具層間		
*metal leaf-paintfile 金と絵の具層間		
*chalking (powdering off) 粉化		
*discoloration of medium 顔料材の変色		
*discoloration of pigment 顔料の変色		
*fading 退色	*metachromatism 化学的変色	
*accretion 付着物	*grime 汚れ	
*stain しみ	*foxing フクシキ	
*mold damage 霉害	*insects damage 虫害	

condition of signature 署名の状態

*good	*fair	*poor
losses 剥落	abrasion すり	
fading 退色	metachromatism 変色	

10

CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査書
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, HIGASHI-KU.
461-8525, NAGOYA, JAPAN
〒461-8525 愛知県名古屋市長区東桜1-13-2
PHONE.052-971-5511 FAX.052-971-5604

No.	

date 日付	examiner検査者	location 場所	℃,RH 温湿度
.....			
.....			
.....			
.....			

object type / medium 材質、技法	dimensions of 本紙の大きさ	dimensions of 1枚(冊)の大きさ
*sliding door *standing screen 襖 衝立	height 高さ	height 高さ
* * 六曲一双 六曲一隻	width 幅	width 幅
* * 二曲一双 二曲一隻	thickness 厚み	thickness 厚み

former mount 表装歴

*The first	*when 年代	*where(who) 工師名(表具師)	*remarks 特記事項
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

*The second

.....

*The third

現状の回数(若しくは回数不明)

.....

hyouyuu mount 表具

*style of hyouyuu mount 表具の種類	*coloring 着色	*mounting material 装具材	*fastening method 固定方法
*小縫製 (色)	地 (文様名)	文 (綴りの技法・材質)	出合
*金物 (文様)	一文字通	出合	(材質)

condition 状態	*good 良好	*fair 普通	*poor 不良
*tear 破れ			*hole 穴
*distortion ひずみ			*disjoin 接合不良
*accretion 付着物			*grime 汚れ
*stain しみ			*foxing フェーシング
*running 糸づれ			*fray ほつれ
*mark 風袋のあたり			

資料10-2 屏風・衝立仕立ての作品の現状調査

verso of byoubu 裏形

----- 地 ----- 文 -----
(色) (文様名) (雲地)
*無地 *鳥羽
雲母の型押しの有無 *

storage box for Byoubu 屏風箱

外箱	-----	-----	-----
内箱	-----	-----	-----
内々箱	-----	-----	-----
(材質)	(塗)	形状	(紙蓋)
style 形状	*tray はめ込み型 *slot 差し込み型	*long 長辺開き *short 短辺開き *cross 横置開き *down 下駄付き	*cover 短辺開き *cover 横置開き
belong 付属品	*none なし *cloth bag 包装 *others その他	*cloth sheet さらし	*ravel 腐葉
string 紐の有	*none なし *single 一本 *double 二本		
箱蓋の有無	*none なし		

original support 本紙

*silk 料絹	*plain 平織り	*twill 綾織り	*
*paper 料紙	*雲肌麻紙	*洋紙	*
	*厚皮紙	*楮紙	*三桧紙
	*chalked paper 見引紙		
質の日	*no なし *17'25	*vague 不鮮明 *30'40	*clear 鮮明 *45'50
water marks 透かし	*none なし	*yes 有り	
blurred ぼろ	*none ぼろまない	*small 少しぼろ	*large ぼろ
technique 技法	*none ぼろまない *metal leaf 箔	*small 少しぼろ	

condition 裏形の状態

*good *fair *poor

*tear 破れ
*hole 穴
*mold damage 霉害
*insects damage 虫害

condition of box

*good *fair *poor

*missing part 部分の欠失
*mold damage 霉害
*distortion ひずみ
*disjoin 接合不良
*abrasion すり
*grime 汚れ
*stain しみ
*accretion 付着物

remark about belongs

condition of original support

*good *fair *poor

*tear 破れ
*hole 穴
*crease 折り
*mold 霉害
*accretion 付着物
*stain しみ
*foxing フォキシング
*running 水つれ
*fray 毛抜け
*yellowing 黄変化

design area(ground-paintfilm-surface) 画層

color 色材	*Japanese ink 墨 *inorganic pigment 無機顔料 *organic pigment 有機顔料 *metal powder 金属粉 *metal leaf 金属箔 *glue 膠 *wax 蠟 *gum arabic アラビアガム *synthetic resins 合成樹脂 technique 技法	*color 顔料 *metal leaf 金属箔 *glue 膠 *wax 蠟 *gum arabic アラビアガム *synthetic resins 合成樹脂 *discoloration of medium 顔料の褪色 *discoloration of pigment 顔料の褪色 *fading 褪色 *metachromatism 化学的変色 *accretion 付着物 *stain しみ *foxing フォキシング *mold damage 霉害 *insects damage 虫害
medium 媒体	*glue 膠 *wax 蠟 *gum arabic アラビアガム *synthetic resins 合成樹脂	
technique 技法	*color 顔料 *metal leaf 金属箔 *glue 膠 *wax 蠟 *gum arabic アラビアガム *synthetic resins 合成樹脂 *discoloration of medium 顔料の褪色 *discoloration of pigment 顔料の褪色 *fading 褪色 *metachromatism 化学的変色 *accretion 付着物 *stain しみ *foxing フォキシング *mold damage 霉害 *insects damage 虫害	
metal leaf 金属箔	*gold 金 *silver 銀 *copper 銅 *others その他 about white 白について	
about black 黒について		
about red 赤について		
about blue 青について		
about green 緑について		
about yellow 黄色について		
about others その他について		
structure/remarks		

signature 署名と落款

*hand writing 手書き	*Japanese ink 墨	*color 顔料
*stamp 印	*red 朱	*others その他

condition of design area

*good *fair *poor

*crack 亀裂
*cleavage 剥離
*support-ground 本紙と下塗り間
*ground-paintfilm 下塗りと絵の具層間
*paintfilm-paintfilm 絵の具層と絵の具層の間
*metal leaf-paintfilm 箔と絵の具層の間
*chalking(powdering off) 粉化

*discoloration of medium

顔料の褪色

*discoloration of pigment

顔料の褪色

*fading 褪色

*metachromatism 化学的変色

*accretion 付着物

*stain しみ

*foxing フォキシング

*mold damage 霉害

*insects damage 虫害

condition of signature

*good *fair *poor

losses 剥落

abrasion すり

fading 褪色

metachromatism 化学的変色

damage history

損傷歴

former treatment

修復歴

伏裏 糊網 折れ伏せ

資料11-1 その他日本画の現状調査

MAP

Packing case 梱包ケース

case 専用箱の有無	*none なし	*slot 差し込み型	*tray はめ込み型
material 材質	*face up 面上	*face down 面下	*others その他
belongs 付属品	*wood 木	*cardboard 厚紙	*polyester foam 発泡スチロール
packing 梱包材	*urethane ウレタン	*cloth sheet 布	*bubblewrap エアークラフト紙
	*none なし	*hook フック	*plastic sheeting ビニルシート
	*mirrorplate ミラープレート	*kraft paper クラフト紙	
	*thin paper 薄紙	*acid-free thin paper 無酸薄紙	

*Tape the glass
ガラス上にテープを貼ってください
*Wear white gloves
白手袋を使ってください。

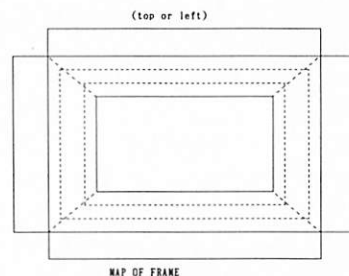
*Do not tape
テープ貼らないでください。
*Do not turn over.
天地逆守 逆さまにしないでください。

CONDITION REPORT 所蔵作品現状調査
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館
1-13-2 HIGASHI-SAKURA, HIGASHI-KU,
461-8525, NAGOYA, JAPAN
〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
PHONE.052-971-5511 FAX.052-971-5604

No	
----	--

date 日付	examiner検査者	location 場所	℃, R.H 湿度

object type / medium 分類、技法材料	
dimensions (frame) height 高さ width 幅 thickness 厚さ	
remarks 特記事項	



frame 額

framed 額装	*yes	*no
glazing ガラス等	*none なし	*float glass フロートガラス (含ミュージアムガラス)
	*laminated glass 合わせガラス	*low-reflect glass 低反射ガラス
	*organic glass アクリル、ポリカーボネイト板等	
work is secured by	*nails 釘留め	*metal plates 金具留め
backboard is	*none なし	*cardboard 厚紙
	*gatorfoam ゲイターフォーム	*organic-glass アクリル等
backboard is secured by 裏面の固定方式	*nails 釘留め	*tape テープ留め
	*metal plates 金具留め	*others その他

remarks 特記事項

condition of frame 額の状態
*good *fair *poor

fitting of work 作品固定

*adequate
*inadequate

構造体 structure
*distortion
ゆがみ
*check
ひび
*loss
欠損

化粧部分 decoration
*abrasion
すり
*stain
しみ
*crack
亀裂
*scuff
汚れ

*plexi-scratch
アクリル板の傷

資料11-2 その他日本画の現状調査書

former mount 表装歴

*The first	*when 年代	*where(who) 工房名(表装氏)	*remarks 特記事項

*The second			

*The 現状の回数(若しくは回数不明)			

support 下地と下張り

*panel support 板装	*other support その他の下張り
* 額から独立したパネル	* 額と一体となったパネル
No. of members 何枚綴ぎであるか	
species 種類	* 合板のパネル
	* その他のパネル
	* ベタ貼り
	* 太鼓張り
	* 捨て張り有り
	* 捨て張り無し
* 紐子綴	
作者とパネル仕立ての関係	
* 制作終了後の本紙をパネル装	
* 裏打された本紙に制作し、完成後パネル装	
* パネル装された本紙に制作	
* その他	

condition of support 下地の状態

*good	*fair	*poor
*mold damage 黴害	*insects damage 虫害	
*distortion in plan ゆがみ		
*warp そり	*hole 穴	
*tear 破れ		
*drow つれ離れ	*waving 波打ち	
*missing parts 部分の紛失		
*disjoin 接合不良、離れ		
*embrittlement 脆化		
*eroding 腐蝕		

original support 本紙

*silk 料紙	*plain 平織り	*twill 綾織り	*other 鉄
*paper 料紙	*雲肌麻紙	*麻紙	*羅仙紙
	*厚皮紙	*楮紙	*三椏紙
	*chalked paper 見引紙		
	*no なし	*vague 不鮮明	*clear 鮮明
	*17-25	*30-40	*45-60
water marks 透かし	*none なし	*yes 有り	
blurred ぼやみ	*none 皆ない	*small 少しぼやむ	*large ぼやむ
technique 技法	* 揉み紙		
	*metal leaf 箔	* 裏箔	

condition of original support 本紙の状態

*good	*fair	*poor
*tear 破れ	*hole 穴	
*crease 折れ	*waving 波打ち	
*drow つれ離れ		
*secrection 付着物	*grime 汚れ	
*stain しみ	*foxing フェキシグ	
*running 糸つれ	*fray はつれ	
* もみけ	* 表裏割れ	
*yellowing 黄変化	*disjoin 接合不良	

design area(ground-paintfilm-surface) 画層

color 色材	*Japanese ink 墨	*inorganic pigment 無機顔料	*organic pigment 有機顔料
	* 無機顔料の具	* 有機顔料の具	
	* 雪母	* 雪母	
medium 媒体	*blue 藍	*wax 蜜蝋	
	*gum arabic アラビアガム	*synthetic resins 合成樹脂	
technique 技法	* 顔色	* 重色	* 裏彩色
	* 盛り上げ	* こすりだし	* 引っかき
	*remarks of technique		
metal leaf 箔	*gold 金	*silver 銀	*copper 銅
about white 白について	*calcium carbonate 胡粉		

about black 黒について	-----		
about red 赤について	-----		
about blue 青について	-----		
about green 緑について	-----		
about yellow 黄色について	-----		
about others その他について	-----		
structure/remarks			

signature 署名と落款

*hand writing 手書き	*Japanese ink 墨	*color 顔料
*seal 印	* 朱	* その他

condition of design area 画層の状態

*good	*fair	*poor
*crack 亀裂		
*cleavage 剥離		*loss 剥落
*support-ground 本紙と下地間		
*ground-paintfilm 下地と絵の具層間		
*paintfilm-paintfilm 絵の具層と絵の具層間		
*metal leaf-paintfilm 箔と絵の具層間		
*chalking(powdering off) 粉化		

*discoloration of medium 画層の着色

*discoloration of pigment 顔料の着色

*fading 退色

*metachromatism 化学的着色

*secrection 付着物

*stain しみ

*foxing フェキシグ

*mold damage 黴害

*insects damage 虫害

damage history 損傷歴

former treatment 修復歴

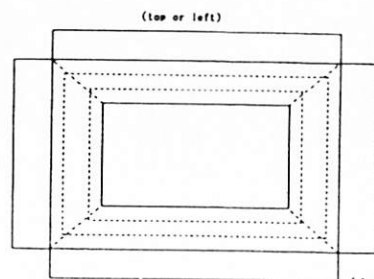
伏置 縫綴 折れ伏せ

資料12-1 企画展用点検調書（ボナール展の場合）

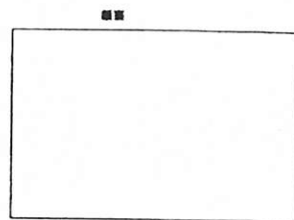
ボナール展 PIERRE BONNARD CONDITION REPORT 点検調書 AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館 TEL 052-971-5511 FAX 052-971-5604 1997年3月28日から1997年5月18日まで THE BONNARD MUSEUM OF ART Benkura 9' 11-277 TEL 03-3477-9252 FAX 03-3477-9283 1997年5月24日から1997年7月21日まで				NO. _____ lender _____ phone: _____ fax: _____	
*Tape the glass. ガラス上にテープを貼ってください *Wear white gloves. 白手袋をってください。				*Do not tape. テープ貼部 *Do not tape over. テープ貼部 足ささないでください。	
Packing case 梱包ケース	Packing case No. 梱包ケース番号	Box color 箱の色	*本箱 *段紙 *紙ダン		
Belongs 付属品	*face up 面を上	*face down 面を下	*cloth bag 布袋 袋		
	*none なし	*cloth sheet 布、さらし	*silk bag 絹袋 袋		
	*silk plate （ラッププレート）	*hook 吊り金具、	*strap つり紐、		
	*others その他				
Packing 梱包材	*thin paper 薄紙	*plastic sheeting ビニールシート	*bubblewrap エアークラップ		
	*others その他				
Material 技法材料	*oil 油彩	*tempera タンペラ	*lithograph リトグラフ		
	*acryl (Berner) 混合技法		*sized media 画材技法		
	*canvas カンバス（画布）	*paper 紙	*over ray 覆り付け		
	*wood board 板	*paperboard 厚紙	*common board 合板板		
Dimensions 寸法	height 高さ	width 幅	thickness 厚さ		
Dimensions of frame 画寸	height 高さ	width 幅	thickness 厚さ		
Remarks 特記事項					
former treatment 修復歴					
permission to holes newly for hooks. 新たに吊り金具用の穴を開けることの許可 *yes signature _____ *no *use existing hooks. 既存の吊り金具を使用のこと *use existing holes for hooks. 既存の穴を利用のこと *use mirror plate. （ラッププレート）使用のこと					

outgoing check *satisfactory good condition. *留意点有り（下記 describe below） date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower
所有書画の点検調書 *有り *無し		
AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館		
incoming check *unchanged condition (特記なし) *changed (describe below) date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower
outgoing check *unchanged condition (特記なし) *changed (describe below) date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower
THE BONNARD MUSEUM OF ART Benkura 9' 11-277		
incoming check *unchanged condition (特記なし) *changed (describe below) date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower
outgoing check *unchanged condition (特記なし) *changed (describe below) date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower
incoming check *satisfactory good condition. *changed (describe below) date 月日 location 場所 温度湿度	examiner 検査者 lender borrower	signature lender borrower

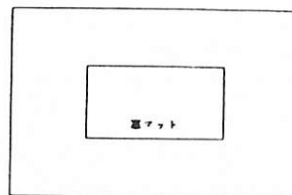
資料12-2 企画展用点検調書（ポナール展の場合）



MAP OF FRAME (※ガラス ※アクリル ※低反射ガラス)
 ※アクリル上の傷 ※鏡面不良 ※調剤体の欠損 ※化粧の剥離 ※化粧の剥離 ※すれ傷



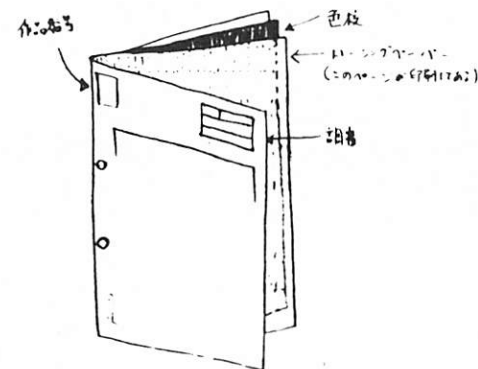
VERSO OF FRAME (※裏の傷 (※裏面あり ※裏面なし)
 ※鏡面不良 ※固定不良 ※破れ ※割れ ※部分の剥離 ※傷み部 ※虫食害



MAP OF MOUNT (※作品への傷あり有り ※なし)
 ※破け ※点状付着物 ※点状のシミ ※虫食害 ※汚れ ※ごみ (ガラスとマットの間の)
 (foxing)

TO: FROM: AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART
 FAX: 01-52-971-6804
 Date:
 Number of pages including cover:

CONDITION MAP



○... / * ○... / * No

この資料は、愛知県美術館の状態調査を読む際の補足資料として作成したものです。
それ以外の目的においての転用を、固くお断り致します。

1. 全般

消失 (部分) ———
紛失 (部分) ———

脆弱化 embrittlement
腐食、錆腐れ eroding
腐れ rot
焼け焦げ burnt
火ぶくれ bliste
被害 mold damage
虫害 insects damage
すれ abrasion
表層すれ rub

焼失、腐敗、溶解等で、その部分の原形が残されていない可能性を示唆する
「割れによる紛失」「切断による紛失」といった場合、失われた部分は元の原形を保っている可能性があり、発見されれば損傷は「割れ」「切断」「切断」等だけが残る
主に酸化によって脆く、壊れやすくなっている状態
錆との接触により起こる劣化
特に木材に限定して用いられる
焼け焦げた状態、溶解、炭化、消失している部分全体の総称
熱による水泡状の変質
微による損傷の総称
虫の喰い跡、穴、分泌物による汚染などの総称 複合的に生じていることが多い
摩擦傷、摩耗傷
光沢が代わる程度の軽度の摩擦傷を特に指すことが多い

2. 構造体の変形

破れ tear
切り目 cut
穴 hole
ピン穴 pin hole
風穴 puncture
へこみ dent
突き穴 ———
ひずみ distortion

そり warp
凹状のそり concave warp
凸状のそり convex warp
幅そり cup
縦そり bow
曲がり crook
折れ crease
ねじれ twisted
波打ち waving
バックリング buckling

つれ皺 draw
ふくらみ bulge
あたり mark
ひび (checking)
亀裂 crack
干割れ split
ひび割れ (rupture)
割れ fracture
接縫不良 disjoin

破れた状態 繊維同志の結合がなくなった状態
刃物等による人為的切り口、繊維も切れる
fig.1,2,3いずれの可能性もある
ピンで刺したような極小さな穴
特に中身の無い状態を強調して用いられる穴 fig.1
fig.2
fig.3
「そり」、「曲がり」、収縮、膨張等、変形の要素を特定できない、あるいは複合的に生じている
変形、ゆがみ
fig.4、変形の部分は全体的
観察される方向から見て、谷状のそり
観察される方向からみて、山状のそり
木材に用いる 繊維方向に対し平行、fig.5
木材に用いる 繊維方向に対し直角、fig.6
fig.7、変形の部分は局部的
変形した局所の組織が崩壊している曲がり
fig.8、そり、曲がりに回転方向の変形が加わったもの
fig.9、凹凸の変形が連続的に続いた状態
素材の繊維方向等によって規則的に現れる波打ちを特に指す 特に紙の場合は「おどり」と呼ぶ
不均衡なひびきによって起こる皺、屏風などの隔しわは特に「しきみ」という fig.10
部分的にふくれた状態
長期に、あるいは強い圧力によって、他のものの形状が写った状態 型押し
つながった部分を多く残す 木材に対して用いる fig.11
fig.12
木材の乾燥による割れ 木心に対して放射状
fig.13
接縫を危うくする fig.14
釘付け、糊付け、組立、綴付け等、接縫された部分が緩んだり、はずれたりしている状態

3. 変色・汚れ

展色剤の変色 discoloration of medium
化学変色 metamorphism
退色 fading
付着物 accretion
点状付着物 spotting
汚れ grime
指痕 finger marks
手ずれ ———
しみ stain
水しみ water mark
輪しみ circular mark

フォクシング foxing

展色剤が黄変したり暗色化したりすることにより色が変わって見えること
色材の化学的な変色
色材が色あせること 光化学的变化の結果が多い
表面に付着したオリジナルとは無関係のもの fig.15
虫の分泌物などが付着した状態
ほこり、ちり等に起因することが多く、「しみ」より表面上にとどまる汚れ fig.16
取扱中の手痕、
手痕と摩擦傷の複合的な状態
内部に染み込んだあるいは内部の原因による汚れ fig.17
水がついた痕を指す
ほこり等が積もったところ等に水等がつき、その広がりによって汚れが移動し、円形のしみとなったもの クロマトグラフィー現象を起こしていることもある
点状の茶色のしみ 微、錆、その他の原因がある

4. 着色層固有の症状

4-1. 変化した状態

亀裂 crack
ひび checking
網状亀裂群 crackle-net
同心円上の亀裂群 concentric circular cracks
枝状亀裂群 fishbone shaped cracks
テント型亀裂 tenting crack

着色層のひび、亀裂 fig.18
板絵の板のひびによっておこる絵具層のひび
縦横に亀裂が走っている部分
蜘蛛の巣状の亀裂、突き傷を中心に起こっている円上の亀裂群
カンバスの折れ等に起因する亀裂群
絵具層がそり、テント型に(切妻型)カンバスを持ち上げている亀裂、浮き上がりの前段階 亀裂は地塗り層まで達している fig.19(この様に定義する一方、open cleavageと同義とするこ

牽引性亀裂 traction crack
 剥離 cleavage
 層間剥離 interlayer cleavage
 内部剥離 blind cleavage
 開口剥離 open cleavage
 剥離片 flake
 碗状剥離群 cupped cleavage
 収縮亀裂 buckled cleavage
 カーリング curling
 剥落 loss
 剥落片 flake
 チョーキング chalking
 ブランチング blanching
 リーチング leaching

4-2. オリジナル性の高い状態

乾燥亀裂 dry crack
 経年亀裂 craquelure
 未乾燥 tacky
 もどり ———
 内部噴出 cold plastic flow
 鱗皮状 alligator
 縮皺皺 wrinkling

5. ニスやコーティング層に起こる事が多い状態

クリーズ crease
 ブルーミング blooming
 結晶体 efflorescence
 黄変化 yellowing
 つやひけ embu
 ブランチング blanching
 艶ぐもり dullness
 ニスすれ pulverization

ともある 愛知県美では、前者の定義に限定している)
 支持体が伸びたことによって生じる亀裂群 fig.20
 プレレーションと絵具層、絵具層間に剥離が生じている 移動には注意を要する段階 fig.21
 元々の構造が積層になっているものの、層と層との接着不良によって生じる剥離
 表面はつながっているが、内部に剥離が起こっている状態 水泡のような形態になっている場合、中にワックスや分離したメディウムが入っていることがある fig.22
 亀裂を囲む両方が浮き上がり、中が見える亀裂 fig.23
 周辺が浮き上がりで囲まれ孤立した絵具片 fig.24
 比較的小さめの剥離片が群発している部分 一つ一つが碗状に変形している fig.25
 支持体のバックリングによって起こる剥離、剥落群 fig.26
 表を中に完全に丸まった絵具片、仮留め等に使われた接着剤が原因となることが多い
 着色層が欠けた部分 fig.27
 着色していた所から外れた部分 fig.28
 白粉化、粉状剥落群
 白濁化 展色剤の経年劣化によって起こる
 白濁化 溶剤の使用などにより、展色剤が洗い流されることによって生じる

絵具が乾燥して行く段階ですすでに形成されている亀裂 fig.29
 陶器の釉薬の貫入のような亀裂、ニスやほりかきで詰まり安定していることが多い
 未乾燥「もどり」 固まらない、ネバネバした状態、ビチューム（アスファルト系絵具）などの使用によって起こることが多い
 特に油彩の場合、ある条件がそろって不乾性油でも固まらない場合がある この状態を「もどり」という
 内部から分離した媒体（展色剤）が噴出した状態
 乾かない（乾きにくい）絵具に重ねて塗られた部分に生じるかさぶた
 油彩やニス層の場合、乾燥時表面積が増えて起こる

非常に細かい網状、毛細管状の亀裂群 光が乱反射し白濁して見える事が多い
 かぶり、ニスを塗布する際、過剰な湿度が入る事などによってニスが半透明化した状態（crystallization）結晶体、クリスタル、空気中の何らかの要因とメディウムが反応して形成される結晶
 やけ、ニスの黄変化、暗色化を特に指す事が多い
 吸収によって、色の彩度、透明度を失った状態
 白濁化、湿度変化によって起こる
 摩擦によって部分的に光沢と透明性を失っている状態
 特に柔らかいニスに生じる 粉末状化、摩擦によって起こる

6. 素材特有のもの

6-1. キャンバス、絵絹に特有のもの

鉤裂き L-shape tear
 糸つれ running
 はつれ fray
 織目のゆがみ ———
 織目すべりの穴 ———
 縫い目笑い loose seam
 縫い目スリップ slipping seam
 縫い目パンク blank stitch
 楔の紛失 keys missing
 楔のゆるみ keys lose
 たるみ sagging(slack)
 木枠のあたり marks of supports

繊維に沿った2方向の破れ、用いられるのは布製に限る
 つれ 伝線 欠線 布製のものに限る fig.30
 構成糸が解けること
 構成糸が定位置からずれること またそのことを原因とした画面のゆがみ fig.31
 構成糸は切れていないが、定位置よりずれたことにより生じた穴、隙間 fig.32
 布の縫い目に力がかかり、縫い目が割れて縫い糸が見えている状態
 布の縫い目が引っぱられ、その部分の素材構成糸が動いて、縫い目が広がったり、縫い代がぬけること
 縫い目に力がかかり、縫い目からはじけること
 楔の紛失
 楔がゆるむ、移動に注意を要する
 キャンバスのたるみ、裏蓋のないものは移動に注意を要する 常に作品の天地厳守
 木枠の角に沿って、絵の表側にその形が浮き上がっている状態 「すれ」を併発している場合が多い

6-2. 紙、表具仕立て、本等に特有のもの

やけ yellowing
 ももけ ———
 表層むけ peel off
 糊離れ ———
 縮皺皺 reticulation
 し込み draw
 巻しわ ———
 風袋のあたり ———
 巻緒による折れ ———
 クリーブ変形 ———

紙等が光によって黄変暗色化した状態 同時に底がもろくなっている場合が多い
 紙の表面の毛羽立ち、ささくれ 水分を含んだ状態での摩擦傷
 紙の最上層が割れたもの、視覚的な質感と厚みが変わる
 糊で貼ってあった部分が剥がれること「糊浮き」ともいう
 接着剤が硬化するときの収縮等の理由により、表面に縮皺様の細かい皺の群が生じること
 つれ皺の一種、屏風などの隅に出る中央に向けた隅しわ 構造体の木がやせることでできる
 軸装されたものの特徴的な横方向の皺 fig.33
 風袋付きの軸装をされたもので、巻いてある時の風袋の跡が型押しとなってついてしまったもの
 軸装されたもので、軸の中央に縦方向についた折れ
 巻緒の折れは上の方が深く、下に行くほど薄くなるのが一般的である fig.34
 屏風、本等を立てて収納していたときに起こる、自重によるたわみ

6-3. 金属

6-3-1. 変化した状態

腐食 corrosion

局部腐食 local action

孔食 pitting

擦過腐蝕 fretting

ブロンズ病 bronze disease

条痕 acid line

片状剥離 spalling

浸食 erosion

金属疲労 fatigue failure

析出 precipitation

変色 tranish

しみ stain spot

がまはだ blister

時期割れ season crack

すずベスト tin pest

温度、湿度、その他の条件によって、金属が化学的または電気的に徐々に侵されることを言う。不純物や窪みなどの部分が電気的に溶出して腐蝕している状態。均一腐蝕に対し特定の条件が付加されている。

局部腐食の内、特に局部的に内部に腐蝕が進行し、孔が開いた状態。

密着している金属と金属、あるいは非金属の間で、ある一定の微震動の結果生じる表面疵。表面に酸化皮膜を形成するのではなく、内部へ内部へと進行する腐蝕。ブロンズに塩化銅が形成されてゆく現象である。相対湿度60%以下では発生しにくいと言われている。

雨や結露水の通り道にそって、腐食物質等が堆積し、縦方向に筋がついた状態。

「スパーリング」、金属の表面から片状物が割れて剥がれてゆく現象。

液体または気体によって摩擦してゆく状態。特にこれらの中に個体物が含まれているとこの現象は促進される。

引っ張り強さ以下の力（本来変形するような力ではない力）を繰り返し応力を起こさせて破断させる傾向をいう。

気体や液体から個体が分離して出てくること。鋳造物では「中子」から水に可溶な成分が表面ににじみでて、徐々に堆積してくることがある。fig.35

金属面が酸化硫化物等によって変色すること。

メッキや鏡面仕上げの表面に現れるもので、メッキやコーティングの前処理が不十分な時に起こる。メッキではメッキ液中の不純物が原因のこともある。いずれにせよ表面層の深部に原因があるので拭き取ることはできない。

メッキや塗装面が膨れる現象、蛙の背に似て見えるのでこの名前がある。メッキや塗装の前処理が不十分だったり、内部で局部的に腐蝕が起こったりした結果生じる。

常温加工で製作された黄銅、洋銀などが時間の経過により自然に割れる状態。「置き割れ」ともいう。これらの金属による作品に必ず起こるものではないが、制作時の条件によって原因が作られているので、予防は難しい。酸、アルカリの接触により促進される。

錫は13℃以上で安定なβスズ（白色）とそれ以下で安定なαスズ（灰色）があり、βスズが低温になると種れ物状に膨脹して崩れる現象。

6-3-2. 鋳造時にできる状態

鋳込み不良 lack of penetration

鋳割れ crack

収縮巣 shrinkage cavity

地疵 streak flaw

きらい blow

ピンホール pinhole

さしこみ penetration

湯が足りず原型に対し不足部分を生じた状態で鋳上がったもの。

鋳ちみ、鋳引けによってできる空洞。不安定。鋳造直後は酸化膜を伴わない。

鋳割れの小さいもの。単に「す」ともいう。

鋳造の結果できる原形と異なる表面の肌目のこと。

「吹かれ」ともいう。鋳型の条件によって出きる鋳物の気泡群。

鋳造時にできる小さな穴。この大きなものを「ブローホール」(blow hole)といい、この群生を「きらい」という。

鋳型の砂の隙間に湯がまわって出きる表面の荒れ。「目さし」ともいう。

主要参考文献

- [1] Eric F. Hansen, et al., ed., *Matte Paint*, AATA, Volume 30, 1993
- [2] Richard D. Buck, 'Inspecting and describing the condition of art objects', p.237-p.244, Dorothy H. Dudley, Irma Bezold Wilkinsohn, et al., *Museum Reistration Methods*, 3rd., rev. ed., American Association of museums Washington, D.C., 1979
- [3] *Trial Outline of Conservation*, The American Institute for Conservation of Historic & Artistic Works, 1973
- [4] Richard D. Buck, *What is Condition in a Work of Art*, American Group-IIC, 1971
- [5] 伊藤延男 「イクロム作成のキーワード」 『保存科学』 26号 東京国立文化財研究所 1987
- [6] Cordelia Rose, 河田公生, ジョージ木暮: 日本語訳, *Courierspeak*, Smithsonian Institution
- [7] 小谷野国子他 『学芸員のための美術品保存の基礎知識 (西洋絵画-I)』 清春芸術村 1982
- [8] CD-ROM *NARCISSE Glossaire Multilangue*, 1996
- [9] 日本規格協会編, 『JIS工業用語大辞典』(Glossary of Technical Terms in Japanese Industrial Standards), 第4版 日本規格協会, 1995
- [10] 金属術語辞典編集委員会編, 『金属術語辞典』, 改訂版, アグネ, 1993

資料14 愛知県美術館の状態調書の留意事項

1996年版

この資料は、愛知県美術館の保存担当学芸員が作成する状態調書を読む際の補足資料として作成したものです。それ以外の目的についての転用を、固くお断り致します。

1. 所蔵品番号、作家名、作品名

現状調書表紙右上に下記の手順で記入する

No.	作家名	生没年
作品名	制作年	

2. 寸法

適正な鑑賞位置から見た、垂直水平の最大寸法を、それぞれ高さとし、幅とする fig.36 変形は0原点からの各ポイントの座標位置を取る この寸法は所蔵作品データとは異なる場合があるので、この採寸方法でとった寸法には()書きで目付を入れることとした

3. 絵画の構造は洋画は fig.37、日本画は fig.38のように表記することとした

4. 額装について

4-1 額縁

- A. 額縁の全面に入っているガラス類については、それぞれの留意点のために、下記のように分類した
フロートガラス（移動時にはテープで養生をする必要がある ミュージアムガラスは高透過ガラスの商品名であり、取扱いはフロート・ガラスと同じ）
合わせガラス（飛散防止の機能を持ったものであるから、移動時のテープ養生を必要としない）
低反射ガラス（テープを貼ることで、表面の加工に影響を及ぼす恐れがあるので、できるだけしないほうが良い移動距離や梱包仕様などによってその都度判断する必要がある）
アクリル、ポリカーボネイト板等（バスター、木炭画、フロートマウント等は帯電の問題があるので、要改善 この状態で移動する時は、梱包仕様に注意が必要である（アクリルに本綿の組み合わせは必ず帯電する））
それ以外の作品については、移動時のテープ養生は不要
- B. 額装に使われる備品は、それぞれの留意点のために、下記のように分類した
金具留め（T字型金具や棒金具等 ステンレス以外の素材と思われるものは、要改善事項として点検時に素材の記録を添えることとした）
とんぼ（移動の度に緩みがないか、確認する必要がある テープ留めと併用するなど、要改善） fig.39
落とし込み（移動の度に緩みがないか、確認する必要がある 必要なものは図中のような厚紙を差し込む等の処置が必要である） fig.40
その他
- C. 額のマップ図は、縦長横長に合わせて、マップの上辺が額の天になるのか、左辺になるのかを明記する

4-2 マット装

- A. 各部分の名称は fig.41のとおり表記することとした
- B. マットの代表的スタイルは、それぞれの留意点のために、下記のように分類した
分離型（窓マットと裏マットが繋がっていないもの 額から取り外す時の取り扱いに注意を要する）
ブックマット fig.41
フローマット（オーバーレイとも言う 作品にマットのかかりのないマット装 平置きの場合は必ず面上、移動、展示の時は前面方向に傾斜しないようにする注意が必要である ヒンジ留め、アクリルとの併用は要改善事項）
- C. 作品の固定方法
ペンダントヒンジと折り曲げヒンジ（作品の天地を厳守する必要がある 愛知県美術館のヒンジ留めは美濃和紙にしょうぶ糊を標準とし、それ以外は記述） fig.42
その他（愛知県美術館は20世紀以降に制作されたコレクションであるという前提条件であるので、特殊事情がない限りヒンジ留め以外の装束方法のものは要改善 特殊事情は記述）

4-3 日本画固有の額装

- A. 額装された日本画の下地を fig.43のように表装された時代を考察する目的で分類し、記録することとした
パネル額（太鼓張り）
組子額
その他
- B. 額と一体となったパネルとは、本紙が張り込まれた下地自体に落とし込みの金具等がついていたりするもの 支持体と裏蓋が一体になる
- C. 組子額の下地の構造と、主に使われる紙は下記のように分類表記した
桐張（桐張り、透しともいう反古紙、茶チリその他）
ミノ張（石州半紙・茶チリ・その他）
ベタ（細川・ハトロシ・その他）
袋かけ（石州半紙・茶チリ・その他）
上張、裏張（色鳥の子・その他）
- D. 画家による制作と、表具師による表装の関係はわかる範囲で記述
ex. 側面にも着色層があり、その上に水張りテープがかかっている
ex. 「裏彩色が終了した段階で本紙を一度受け取り、パネルに仕立てて納品した。引き取ったときには肌裏はなかった」伝・*氏*堂より、**年月日

4-4 軸装

- A. 軸の各部分名称は fig.44のように表記することとした
- B. 軸頭の種類の表記は下記のとおりとした

文様名	文	材質	形	軸	備考
-----	---	----	---	---	----

ex. 「象牙潑軸」
（象牙）の（潑）形の軸
ex. 「紫檀頭切軸」
（紫檀）の（頭切）形の軸

ex. 「金頭切軸彫」
(金)の(頭切)形の軸で(彫)のあるもの

ex. 「蓮唐草文金鍍金軸」
(蓮唐草)模様の(金鍍金)された軸

C. 主な軸頭の形の分類は fig.45のとおりとした

D. 主な表具の種類分類は fig.46のとおりとした

E. 裂の種類分類は下記のとおりとした

色	地	文様名	文	織物の名称形
---	---	-----	---	--------

ex. 「茶地立銀杏唐草文綾」
(茶)色地に(立銀杏と唐草)模様の(綾)織物

ex. 「白地小牡丹文金襴」
(白)色地に(小牡丹)模様の(金襴)の織物

F. その他の留意事項

糊(情報を得られた段階で下記の種類をする)

正麩糊(生麩糊、沈糊 小麦粉を晒して作る)

布海苔

化学糊

液状化学糊

熱圧着性化学糊

縁(耳)の折り曲げの有無

4-5 屏風仕立て

A. 各部分の名称は fig.47のとおりとした

B. 縁の付け方は表具された時代を考察する上での資料として、一文字通、出合 (fig.48) の区別を記入することとした

C. 金具の種類分類は下記のとおりとした

文様名	文	技法	材質
-----	---	----	----

ex. 「杵取石目打地銀」
(杵取)文様のある(石目打)技法による(銀)の金具

D. 裏形の種類の表記の仕方とその例

色	地	文様名	文	素地の種類
---	---	-----	---	-------

無地か鳥樺が多い

ex. 「緑地鳥樺文唐紙」
(緑)色地に(鳥樺)模様の(唐紙)

ex. 「藍染無地紙」
(藍染無)地の(紙)

E. 画家による制作と、表具師による表装の関係はわかる範囲で記述

5. 支持体(日本画では本紙(料紙)、料箱という 他の呼び方に基底材、素地がある)

5-1. カンバス(画布と訳す 近年市販されているカンバスは化繊やその混紡が多く、見ただけでは判断のつかないものが増えてきている 時代的な考証や文献、伝聞、はつれた糸による燃焼実験、顕微鏡観察等の裏付けがない限り、麻布や木綿、化繊等の区別はしない)

5-2. 板(支持体としての板の種類分類は下記のとおりとした)

木板(木材の板 切り出し方は選択、木の種類は記述)

合成板(人造板のこと、さらに下記の種類をする)

合板(ベニア板、コンパネのこと シナベニア、ラワンベニアの区別は記述)

削片板(パーティクルボード等のこと)

木質繊維板(ファイバーボード、ハードボード、メゾナイト等のこと)

材心合板(ラムバーコア、ブロックボード等のこと)

5-3. 紙(サイズ、どうさ、その他の目どめは支持体の項にのいる 材質別の分類を優先させる)

木材パルプ紙(洋紙全般)

厚紙(カードボード、カルトン、イゾレル、アカデミックボードもこの分類に入れる)

トレーシングペーパー(グラシン、硫酸紙ともいう)

レイド紙(パルプに澱粉を加えた版画用の紙、オランダ紙と言われた時代もある)

コットン紙(ラグペーパーのこと、手漉きのものは簀の目紙、網目紙の区別がある また、全紙の状態では透かしが入っている場合が多い)

B.F.K.リブ紙(代表的な版画用の紙、フランス原産)

アルシュ紙(代表的な版画用の紙、フランス原産)

その他はわかる範囲で記述

和紙(簀の目を「なし 不鮮明 鮮明」と分け、数えられるものはその紙のももとの使用目的を考察するために、3cm四方に{17-25、30-40、45-50}の段階に分ける また表面のどうさの状態を考える上での資料のため、上に来る墨や絵具が滲み、かすれの情報もこの項に入れる)

雁皮紙(簀の目出ていないことが多い 斐紙とも言われる)

鳥の子(従来雁皮紙の事であったが、現在は「特号、純雁皮」「1号、雁皮と三極」「2号、純三極」のことであるので注意を要する)

間似合紙(鉱物性填料を入れて漉いたもの)

楮紙(簀の目が不鮮明)

美濃和紙(純楮)

美濃紙(楮と白土と胡粉)

宇陀紙(楮と白土)

石州紙

典具帖(紙の中で最も繊維が長く薄い紙と言われている 近年「ちぎり絵」の普及により、レーヨンもしくはレーヨン入りのものが、この名称で市販されている)

三桠紙（黄の目が鮮明なことが多い）

麻紙（麻紙というが、現代の和紙の麻紙は必ず楮が入る「雲肌麻紙、厚手」「白麻紙、薄手」が使われる）

貝引紙（胡粉を塗ったもの）

唐紙

羊皮紙（パーチメントのこと 羊の皮と書くが、必ずしも羊とは限らない）

ペラム（もともとは、子牛の皮から作られた薄手の最上等品のことだったが、途中から子牛の皮に限らず、上等品のことを指して用いられるようになったともいう）

5-4. 網（料絹とも言う、絵絹のどうさは作者が行うことが多いので、この絵具層に含める 基本的に生絹と考え、練絹の場合は特記 平織り、綾織り、綾の織り方の区別をする）

5-5. その他の情報

A. 紙の緑の情報

すきっぱなし（手漉き紙のオリジナルの緑）

くいざき（watercutのこと）

やぶり

切断（日本の額装技術者は極近年まで、表装技術の本紙の扱い方にならぬ、紙の端を切断することが多かった このことは、そのマット装が国内で行われたものである可能性を示唆する資料となり得ることがある）

B. ウォーターマークについて（形状と位置、表裏を記録する）

6. 各技法材料ごとの留意点

6-1. 油彩

A. 絵具層は展色剤の分類を優先とし、下記のものを含める

油（展色剤が乾性油主体のもの）

テンペラ（合成樹脂以外のエマルジョンを展色剤とするもの）

玉子テンペラ（全卵を使用する場合と、卵黄を使用する場合がある）

カゼインテンペラ

ニトロセルロース（ピロキシリン等）

合成樹脂絵具

アクリル絵具（1958年頃より使用される）

水性エマルジョン型アクリル絵具

溶剤型アクリル絵具（マグナMaguna等 補彩によく使用される）

ビニル絵具（ポリ酢酸ビニル系、国内で販売された時期については現在調査中）

混合技法（テンペラと油彩を層として併用する技法）

混在技法（一枚の作品のなかに、複数の材料が使われているもの mixed mediaの訳としても用いる）

B. キャンバスの裏打ち

方法

総裏打ち

ルースライニング（木枠に別の布を張り、その上に接着剤を用いず作品を張り込むこと）

ストリップライニング fig.49

接着剤

ワックス（オランダ式とも言う 蜜蝋、マイクロクリスタルワックス等）

小麦（イタリア式とも言う）

膠

BEVA（熱可塑性の合成樹脂 シートタイプや溶剤に溶かした液状で市販されている）

蜂蜜（ロシア等で発展した）

C. 技法（状態に含まれる場合もあるが、作品のオリジナリティーとして技法に分類することが多い内容も含まれる 特に修復時に気をつけなければ技法についてを表記）

グレース（洗浄作業毎に損傷、摩耗を受け易い 現在誰が見てもこの技法があるとわかる状態であっても、記録をできるだけ正確に残す必要がある）

ブリード（裏映り、泣きともいう「グレース」と同じ理由で記録の必要がある）

乾燥亀裂

「縮み」ともいう

鱗皮状亀裂（アスファルトの使用の可能性もあるので、固まっているかどうかを確認する必要がある）

縮縮皺（これを「縮み」とも呼ぶ）

未乾燥

6-2. 水彩、素描

A. 絵具層は展色剤の分類を優先とするが一部慣例に従った しかし展色剤の種類は正確にはわからないことが多い 明確なことがわかった時点でその裏付けを記述し、分類をしないこととする 商品名は記述

鉛筆（筆圧による紙の凹凸や、周辺への粉の移動等を観察する）

木炭（メディウムはない 炭素分子が支持体の繊維に絡まっていたり、乗っていたりするだけなので定着液の補助がない状態では極めて定着力は弱い）

パステル（これもメディウムによる固定力はほとんどない、アクリル板の使用は厳禁、収納・移動は画面平置が原則 コンテ、チョークを含む 顔料と極少量の水性メディウムを混ぜ、棒状に固めたもの）

クレヨン（クレパスを含む 顔料、油脂、各種の蠟をメディウムとした油性パステル）

水性絵具

水彩絵具（アラビアゴムとグリセリン）

不透明水彩絵具（グアッシュ もともとはテンペラの一種 現在はアクリル絵具である）

ポスターカラー（特に体質顔料が多い デトランプ）

合成樹脂絵具

アルキド樹脂（ポスターカラー、シルクスクリーン用インクに使われていることがある）

アクリル（1958年頃より使用される）

アクリル絵具（水性エマルジョン型、グアッシュとして売られているものもある 版画用インクもある）

溶剤型（マグナMaguna等 補彩によく使用される）

液状アクリル絵具（ドローイングインク、エアブラシ用インク）

ビニル (ポリ酢酸ビニル系)

インク (この場合ブルーブラックインクのことで指す 年代によって組成は大きく変わる)

墨 (Chinese Ink, Indian Ink 水に混じって支持体の繊維の間に入り込み、わずかな凹凸に炭素分子が吸着し、定着するもの メディウムの接着力によって炭素が定着する黒絵具は、それぞれのメディウムの分類による絵具に含める)

膠彩 (デトランプはポスターカラーに含める この場合の膠彩はいわゆる日本画である 技法材料としては日本画である (慣例として)、愛知県美術館が管理運営上、分類を「水彩、素描」とした作品がこの分類になる また、洋画の膠テンペラも含める)

その他

B. 技法

掻きだし (後に事故などによる変化との区別が紛らわしいことがあるので、出来るだけ早い時期に記録を取ることが必要)

擦出し (支持体の凹凸の有無を早いうちに観察、記録)

貼り合わせ (接着剤が確認できれば記述)

デカルコマニー (絵具の凹凸、メチエの立ち方を早いうちに観察、記録)

その他

C. 定着液の有無

6-3 版画

A. 技法については版の製作方法を分類の優先とする インク (絵具) については記述 版の材質や版の所蔵先、刷り工房については、わかる範囲で記述

ex. 「つげ」伝作家 NIKKEI ART 1997年8月号 P.39

ex. 「亜鉛板 ルーブル カルコグラフィー所蔵」長谷川公之『現代版画の基礎知識』p.82

凸版

木版画 (英語はwoodblockprintで、下記の二つの種類がある)

板目版画 (木材としての板目、柀目に関係なく、木口を使用していないものをすべて板目木版という ペニヤ版も含まれる 英語はwoodcut)

木口版画 (英語はwoodengravingで、ヨーロッパで発達した版画技法)

リノカット

その他

凹版 (インタリオともいう)

エンレーピング (ビュラン刻ともいう)

ドライポイント (ボアント・セッシュとも表記 (仏語)「まくれ」{パール}の有無でエンレーピングと見分けられるが、この「まくれ」が摺る毎に摩耗する 凹凸やインクの溜まり具合を観察して記録)

エッチング (腐食銅版 オーフオルトとも表記 (仏語))

アクアチント (アクアチントとも表記 (仏語) 松脂やアスファルトの粉末を散布して防蝕剤として使うエッチングの一種)

メゾチント (マニエール・ノアルあるいはマニエール・アングレーズとも表記 (仏語))

平版

リトグラフ

モノタイプ

オフセット

孔版

シルクスクリーン

謄写版

ステンシル (合羽版もここに含める)

B. その留意点

手彩色の有無 (裏からのものについては記述 英語はColored print)

版木の跡の有無 (凹凸版による作品で、版木の跡があいまいなものは、バスブリーチ等の修復歴を持つ可能性を示唆する)

トーンプレートの有無 (材質、色、のりについてはわかる範囲で記述)

後彩の有無 (時として修復家による後彩なのか、作家による刷り直し直後の補正なのか判断できないことがあるので、所在場所と使われた材料についてのみを記述)

サイン (サインに使われた素材について記述)

6-4. 金属作品 (ブロンズ鑄造の作品を中心に)

A. 表面処理

金属着色 (化学的着色法という人もいる 金属の酸化膜を利用した着色方法 本来はパティナはこの方法のことである)

黒系統

うるし (焼き付けによる着色なので厳密には化学的着色法ではない この仕上げによるものは原則的に素手で触れてはならない 時間を置いて手跡が浮かび上がってくる)

硫化銅

酸化銅

緑系統

酢酸銅 (この着色法によるものも、製作後時間をかけて色調が変化してゆく そのため素手で触れてはならない)

塩基性炭酸銅

茶系統

酸化第二鉄 (おはぐろ方による着色)

赤系統

酸化第一銅

白系統

硝酸銀

メッキ

塗装 (油絵具やニトロセルロース等で色材をほどこしたものに酸化皮膜がある場合と無い場合がある 補彩の目的で部分的に用いられている場合もある)

顔料入りワックス (金属着色の上にくるワックスに顔料を入れ、色味調整しているもの 補彩の目的で用いられることもある)

ワックス (金属着色方法の表面の艶の調整と保護を目的とした層、日本は伝統的にイボタ蠟を使い、ヨーロッパでは密蝋を用いた)

ラッカー (上記ワックスの変わりに用いられたもの、極まれに室内用の作品に見られる)

コーティング (後補保護膜、上記ワックスやラッカーの上に施される 金属着色が行われていない作品には金属に直に塗布されている)

アクリル系 (他のコーティングに比べ耐候性に劣り、3年毎に再新が必要と言われている しかしその反復性が評価され、採用されることもある)

インクラック（脱塩剤入りのコーティング剤の商品名 プロセスのものに用いられる）

ウレタン系

シリコン系

フッ素系（耐候性に定評があるが、そのため将来の除去の可能性を懸念する評価もある）

B. 鋳造について

鋳造場所

鋳造年月日

鋳造方法（伝統的に型の作り方によって名称がついているが、その場合雌型であったり、雄型であったりと様々ではないので、雄型、雌型、中子
何れかでわかる情報を記入する事とした また鋳造物の状態記録は鋳造時の状態とその後に変化した状態とを明確に分けて記述する
状態用語の項を参照）

雌型（外型ともいう 必ずしも鋳型ではない）

砂型（乾燥型・生型）

真土型（焼型ともいう、日本のブロンズ彫刻の鋳造に最も多い）

金属型

炭酸ガス型（ガス型）

石膏型

セラミック（シェル・その他）

シリコン、セラチン（蠟型と併用して一度に多数の複製を作ることが可能である）

その他

雄型（必ずしも原形のことでない 原形は横に添え書き）

粘度

石膏

木

蠟型（ヨーロッパ鋳造の作品に多い 工業鋳造で精密鋳造法と呼ばれるのはこの雄型を用いたものである ロストワックス法）

その他

中子（心金、中子の残りを記録）

砂

石膏（析出物が、「す」等を通じて表面に堆積することがある）

その他

仕上げ方法（錢洗）

鏡面仕上げ（コーティングのないものは素手で触ってはならない コンパウンドの種類を記録）

サンドブラスト（梨地仕上げ）

鋳放し（鋳造後、湯道の切断など最小限の仕上げしか行わないこと ばり等を意図的に残した作品は、その部分が脆いので、状態を記録する

英語 as cast）

その他の留意点

内部の補強材（ブリッジや心棒などがある場合は、その取付法とともに記録）

溶接の有無（特に周辺の色や状態や、亀裂の有無を記録する必要がある）

ろう付け（合金の種類がわかれば記録、注意点は溶接と同じ）

鋳がらくりの有無（一鋳であるが、わかる範囲で記録）

組物の手段（ボルトナット等、箇所、個数について記述、ボルトナットは時として緩んでいる場合があるので、移動時には確認する）

鋳造と作者との関係（わかっている範囲で、出典とともに記述）

ex. 蠟型を作者が仕上げ 鋳放しを指定、伝*＊鋳造所、*＊氏 口伝*＊年

ex. 作者は仕上げまで立ち会い、伝作者 口伝*＊年

6-5. その他立体

A. 作品、台座の安定性についてを記述、また各々の固定方法も記述 災害対策のために常にその方法については検討を要する

B. 機能についてはその動力源や動きについてできるだけ記述 作品のコンセプトとの関係でどこまでを作品の表現を考えるのか、資料収集に努め、記述

ex. 「光が表現なので、蛍光灯は古くなったら、100W、5000ケルビンのものと交換して欲しい」伝作家 *＊年月日

ex. 「このモーターの形そのものも表現に関わっているので、壊れても交換せずに治して使って欲しい」伝作家 *＊年月日

ex. 「腕の振り幅は上下動約80cm程 頭の振り幅角度は約180度」計測 *＊年月日

C. インスタレーションは、作家の制作課程のビデオ等の記録資料の有無、完成した空間の映像、写真等の資料の有無、作家のコンセプト等に対する解説資料の有無を確実に記録することとする

ex. 「*＊年月日収録の作家によるコンセプト及び制作方法についての口述記録テープ有り 約30分」

ex. 「*＊年月日 *＊展の為に制作風景記録のビデオ有り 約2時間分」

6-6. 日本画

A. 色材（わかる範囲で記録する）

墨（墨溜まりの有無も記録する）

岩絵具

新岩絵具

雲母（きらともいう）

泥（陶用金属粉ともいう）

箔（砂子、野毛、切り金等、金属の種類は記述）

B. 展色剤

膠

密蝋（棒絵具に含まれる）

アラビアゴム（顔彩、鉄鉢の媒体）

合成樹脂絵具

C. 絵具層の技法

混色（西洋技法の絵画の混色との違いは、粒子の重さの違いからくる沈澱速度の違いを効果に用いている場合が多いということである）

重色

たらしこみ

裏彩色（表具と作者の關係に注意する）

盛り上げ（胡粉の盛り上げは剥落しやすいので、常に観察し亀裂の発生を早期に発見する必要がある）

こすりだし（フロッタージュ 表具と作者の関係に注意）

引っかけ（傷とまぎらわしくなるので、この技法の所在は早いうちに記録する）

D. 本紙の技法

揉み紙（表具と作者との関係に注意する）

箔（金属の種類は記述 彩色部分も箔がある場合は記述）

裏箔

E. 作者と表具の関係（側面の絵具の有無等、手がかりは記録 その他に情報がある場合は出典とともに記述）

ex. 作者が本紙に肌裏打ち、下図と裏彩色が終了した段階で、表具師が仮のパネルに張り込み、作者はパネル上で制作を終了 それから表具師が仮パネルから本紙と肌裏を取り外し、屏風に仕立てた 伝*堂、*氏、口伝*年月日

7. 箱

7-1. 輸送用の一般的な箱

差し込み型（側面から滑り入れる形状のもの 畳箱もこの類に入る 絵画の場合この形状の箱に直接入れると、引き出すときに顔の上辺をつかんで引き出すことになるため、黄袋が必要になる 黄袋の有無を合わせて記述する）

はめ込み型（本体と蓋の2部式の箱）

抑え材梱包 fig.50

作品型くり貫き梱包 fig.51

解放型木箱（オープンクレート、ジャグルジムのように木枠で作品を固定することだけを目的とした箱 輸送の時は箱のまわりにさらに梱包材が必要になる）

7-2. 軸箱（供書きの有無も記録 表具の形式が変わると寸法が変わり、入る箱も変わる 供書きのある箱に入る軸は少なくとも形式、寸法については、作者が認めた表具であるということになる）

A. 塗り

黒漆塗り

赤漆塗り

呂色

白木

B. 形状

印籠箱（ヤロウ箱ともいう 古来は狩野派や四条派の絵画に用いられていたらしいが、今日では最も一般的な内箱である fig.52 文人箱もこれに含める）

文人指蓋（もともとは文人画のものに用いられていた fig.53）

中次箱（一般的な外箱 fig.54）

台指蓋（一般的な外箱 fig.55）

二方棧蓋（茶室用の軸に好んで使われていることになっている fig.56）

四方棧蓋（二方棧蓋と同じ fig.57）

覆蓋 fig.58

差込蓋（この外箱の中は、文人箱か文人差蓋が多い fig.59）

笈（柿渋塗りのものが多かったが、現在ではその他の防水加工も増えてきている fig.60）

C. 付属品

紐（10年で弱くなると言われている 形状と色を記録 取り替えた場合は取り替えた日付と旧紐の保管場所を記録する）

蓋覆（印籠箱の蓋にかぶせられた紙の覆い fig.61）

包製（絹、木綿、色目は記述 劣化した絹は裂け易いので使用しない方がよい 別場所で保管）

紙帯（軸を箱から出しやすいように用いる力帯 巻緒が弱ったものはこれを用いた方がよい）

題簽（本来は外題のことをいうが、現在では展覧会のキャプションのことを呼ぶ人が多い 出品作品として軸箱の中に入れておく所蔵家も多い 入っていた記録だけを取り、別場所で保管 鑑定書、手紙の類も同じ）

7-3. 屏風箱

長辺開き（袋、糸布の有無を記録）

短辺開き（引き出す距離が長くなるので、要改善 また作品の蝶番側がどちらかわかりにくくなるので、目印を記録）

下駄付き

主要参考文献

以下のリストは、1. 状態調査など全般 2. 比較的海外の文化を背景としている技法材料 3. 比較的日本の文化を背景としている技法材料 4. 修復関係、修復報告書 5. その他の順で列挙した。

これは参考にしたすべての文献のリストではない。参考文献としての重要度の他に、多くの方々に比較検討して頂くために、国内で比較的手易いものを選出し、列挙した。

この他に重要な参考資料としては、10ヶ国、44団体（個人）、49様式の状態調査書の様式と記載事項を参考にした。

1. 状態調査など全般

- [1] Dorothy H. Dudley, Irma Bezold Wilkinsohn, et al., *Museum Reistration Methods*, 3rd., rev.ed., American Association of museums Washington, D.C., 1979
- [2] *Written Documentation*, The American Institute for Conservation of Historic & Artistic Works, 1981
- [3] CD-ROM NARCISSE *Glossaire Multilangue*, Network Of Art Research Computer Image Systems in Europe, 1996
- [4] 伊藤延男, 「イクロム作成のキーワード」, 『保存科学』, 26号, 東京国立文化財研究所, 1987, pp.85-136
- [5] Cordelia Rose 河口公生, ジョージ木暮訳 *Courierspeak*, Smithsonian Institution
- [6] 日本規格協会編, 『J I S工業用語大辞典』(Glossary of Technical Terms in Japanese Industrial Standards), 第4版, 日本規格協会, 1995
- [7] 田邊三郎助 登石健三 西川杏太郎監修, 『美術工芸品の保存と対策』, フジ・テクノシステム, 1993
- [8] 日本博物館協会訳 ICOM編 『MUSEUM BASICS 博物館の基本』 日本博物館協会 1996

2. 比較的海外の文化を背景としている技法材料

- [1] マックス・デルナー, 佐藤一郎訳, 改訂者ハンス・ゲルト・ミューラー, 第14版, 『絵画技術体系』, 第3版, 美術出版, 1984
- [2] クルト・ヴェーデル, 佐藤一郎監修 佐藤一郎 戸川英夫 真鍋千絵共訳, 『絵画技術全集』, 第1版, 美術出版, 1993
- [3] グザヴィエ・ド・ラングレ, 黒江光彦訳, (新版) 『油絵の技術—増補・アクリル画とビニル画』, 第10版, 美術出版, 1989
- [4] クヌート・ニコラウス, 黒江光彦監修 黒江信子 大原秀之共訳, 『絵画学入門』, 美術出版, 1985

- [5] クヌート・ニコラウス、黒江光彦監修 黒江信子訳、『絵画鑑識事典』、美術出版、1988
- [6] 森田恒之、『画材の博物史』、第4版、中央公論美術出版、1987
- [7] ホルベイン工業技術部編、『絵画材料ハンドブック』、中央公論美術出版、1991
- [8] ホルベイン工業技術部編、『絵具の科学』、再版、中央公論美術出版、1991
- [9] ホルベイン工業技術部編、『絵具の事典』、中央公論美術出版、1996
- [10] 歌田真介他、『別冊美術手帖、油絵のマテリアル 材料+道具総カタログ』、1983年夏号 美術出版、1983
- [11] 目黒区美術館編、『画材と素材の引き出し博物館』、中央公論美術出版、1995
- [12] 長谷川公之、『現代版画の基礎知識』、初版、沖積舎、1995
- [13] 室伏哲郎、『版画辞典』、初版、東京書籍、1985

3. 比較的日本の文化を背景としている技法材料

- [1] 東京国立文化財研究所編、『表具の科学』、東京国立文化財研究所、1977
- [2] 山本元、『表具のしをり』、芸艸堂、1924
- [3] 湯山美治、『表装の技法』、第7版、日貿出版、1986
- [4] 岡岩太郎、『表具入門』、芸術新潮 1985年12月号、新潮社、1985
- [5] 全国美術館会議事務局編、『第8回学芸研修会報告書』、全国美術館会議、1992
- [6] 小林燭一、『新潮選書、紙の今昔』、新潮社、1986
- [7] 別冊太陽 No.40 『和紙』、平凡社、1982
- [8] 林功 箱崎睦昌監修、『人気作家に学ぶ日本画の技法12 画材と技法』、同期舎出版、1994
- [9] 和英対照日本美術用語辞典編集委員会編、『和英対照日本美術用語辞典』、初版、東京美術、1990
- * ニュースレター (定期不定期刊行物)
- [10] 和紙文化研究編集委員会編、『和紙文化研究』、和紙文化研究会、(おりがみ会館気付)

4. 修復関係、修復報告書

- [1] 小谷野匡子他、『学芸員のための美術品保存の基礎知識 (西洋絵画Ⅰ)』、清春芸術村、1982
- [2] 修理者協議会編、『京都国立博物館文化財保存修理所創設10周年記念報告書 美の修復』、修理者協議会、1990
- * 修復報告、ニュースレター (定期不定期刊行物)
- [3] 創形修復研究所編、『修復研究所報告』
- [4] 山傾絵画修復工房編、『絵画修復報告』
- [5] 岡黒光堂編、『修復』、岡黒光堂
- [6] 修復技術部 『修理報告』、東京国立文化財研究所編、保存科学、東京国立文化財研究所
- [7] 田中千秋他 『修復報告』、プリヂストン美術館編、館報、プリヂストン美術館
- 5. その他
- [1] 金属術語辞典編集委員会編、『金属術語辞典』、改訂版、アグネ、1993

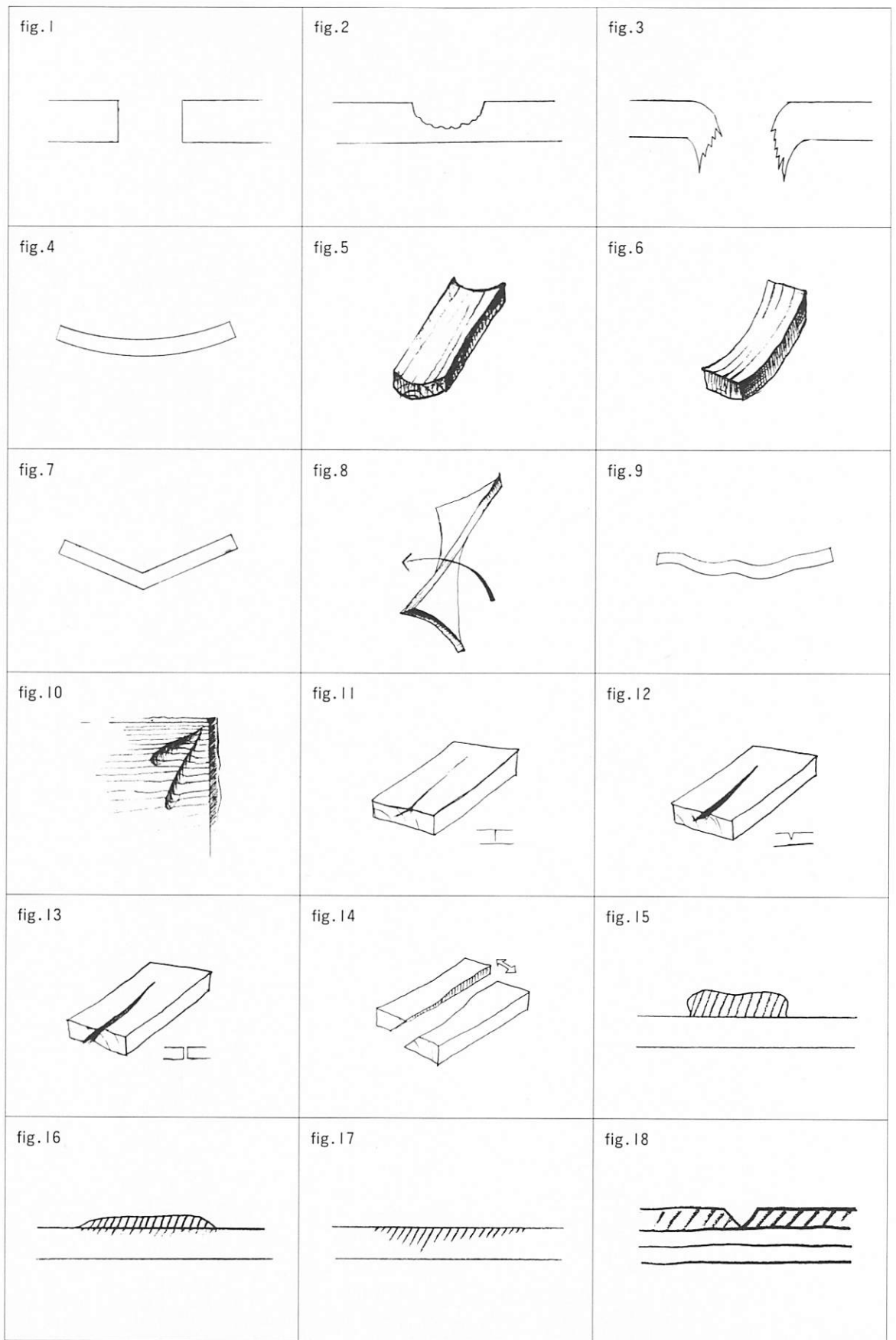


fig. 19

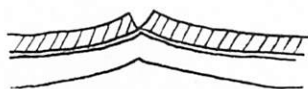


fig. 20



fig. 21



fig. 22



fig. 23



fig. 24

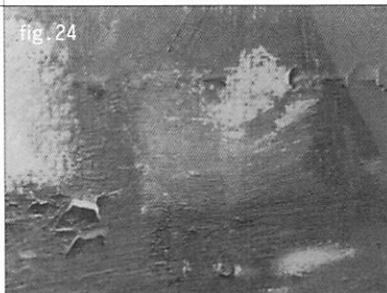


fig. 25

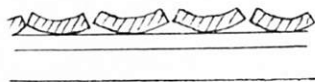


fig. 26



fig. 27

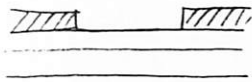


fig. 28

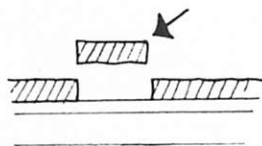


fig. 29



fig. 30

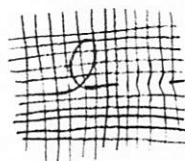


fig. 31

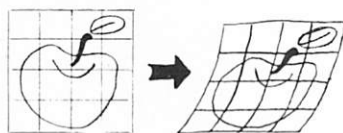


fig. 32

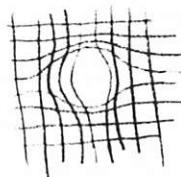


fig. 33

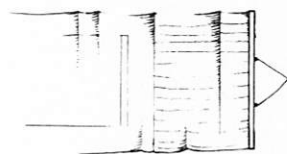


fig. 34

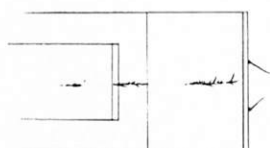


fig. 35

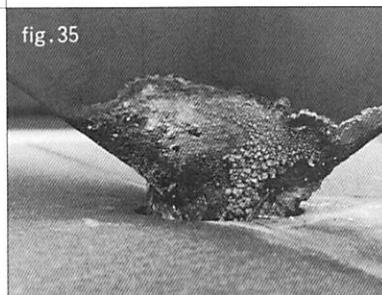


fig. 36

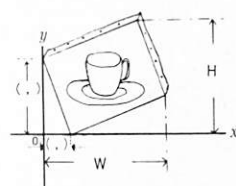


fig.37



- ① 支持体 ③ 地ぬり
② 目留め ④ 絵具層

fig.38

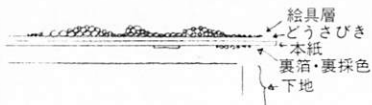


fig.39



fig.40

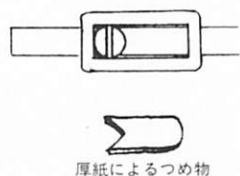


fig.41

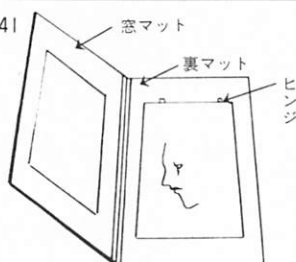


fig.42



fig.43

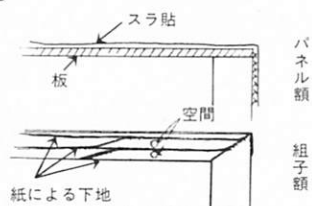


fig.44

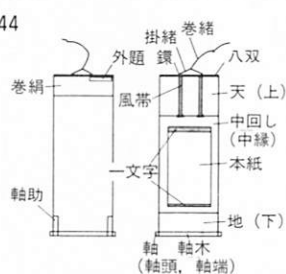


fig.45

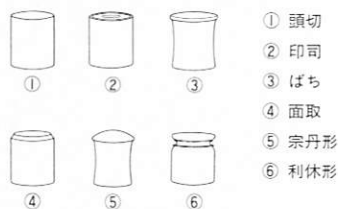


fig.46

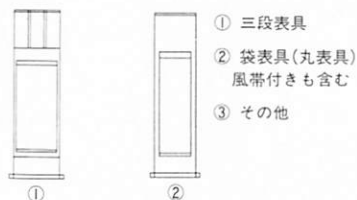


fig.47

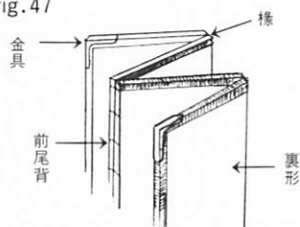


fig.48

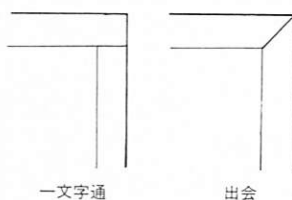


fig.49

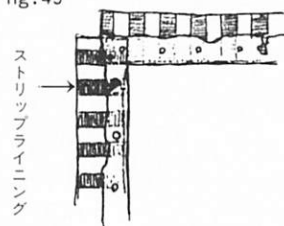


fig.50

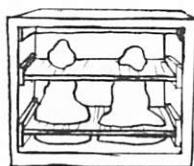


fig.51

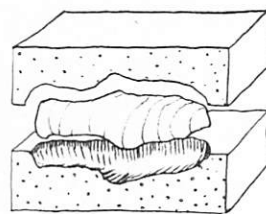


fig.52

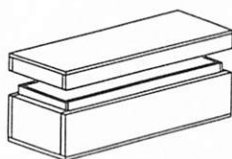


fig.53

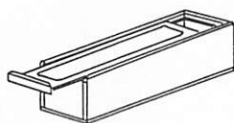


fig.54

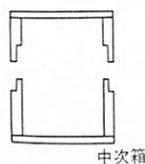


fig.55

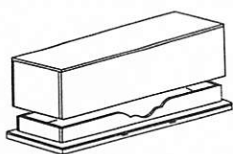


fig.56

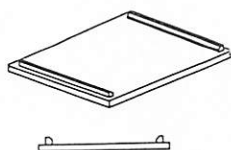


fig.57

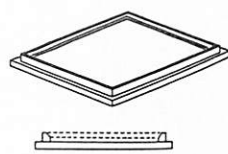


fig.58

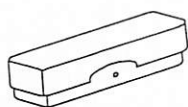


fig.59

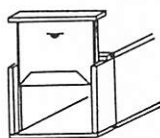


fig.60

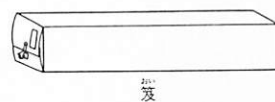


fig.61

